

心 理 学 科 彙 報

2024年度心理学科の動向

心理学部心理学科は2024年度で19年目を迎えた。4月には臨床心理学コースに木村大樹講師が、発達・教育心理学コースに神崎真実講師がそれぞれ着任された。また、2021年からスタートした人工知能・認知科学専攻が4年目を迎え、完成年度となった。

本学のLearning Management System (LMS) は Knowledge Deliverへの移行が完了し、習熟が進んできた本年度かと思われたが、翌2025年度には新たなLMSであるCanvasに完全移行する予定である。こうしたDX推進に伴う混乱も時代の通過儀礼であろうか。一方で、公式スマホアプリである「OIDAI」アプリがリリースされ、こちらは概ね好評のようである。このアプリで時間割やバスの時刻をすぐに確認でき、大変便利である。また、学部・学科内の運営業務を円滑にするためWebexのチャットツールを本格的に導入した。学科や専攻、執行部等のそれぞれに属する構成員によるチャンネルを形成することで、迅速・円滑な業務遂行が可能になった。しかし、大学からWebexでの運用を2024年度で中止し、Googleアプリに移行するとの通知が本年度途中であった。どこかで見たような話である。

心理学科心理学専攻の特色である公認心理師対応カリキュラムは7年目となった。これまで同様、資格条件の取得を希望する学生へのサポートとして、心理学検定の受験料補助制度が運用された。前年度まで3回生配当科目であった「心理演習」「心理実習」は配当年次が変更され、本年度から4回生配当科目として運用された。これにより資格取得を希望する学生に特化して受講してもらえるカリキュラムとなった。また、コロナ禍により数年間中止となっていた、実習受け入れ先との連携懇親会も久しぶりの開催となった。

心理学専攻における本年度の卒業論文提出者の数は17本であった。昨年度は33本であったため、半減となった。年によって本数に変動はあるが、卒業生（小野田ゼミ）が自身の卒業研究で日本心理学会の特別優秀発表賞を受賞するなど、高いレベルで卒業研究が行われている。

人工知能・認知科学専攻では初めての卒論生を出す年度となった。すべての学生に卒業論文の提出と発表が課され、精力的に研究に取り組む姿がみられた。翌年度には心理学研究科に人工知能・認知科学コースが開設されるため、初めての大学院入試が行われた。内部から受験した者もあり、順調な滑り出しであった。また、人工知能・認知科学専攻では学部生の積極的な学会発表が推奨されており、多くの4回生が学会発表を行った。画像電子学会において丸野進教授・菰淵寛仁特任准教授の研究室に所属する学生が学生発表奨励賞を受賞し、さらに本田秀仁准教授の研究室に所属する学生がインフォメーション・ヘルスアワードのアイデア部門のグランプリを受賞するなど活躍が目立った。さらに、丸野進教授が国際学会（IEVC）で最優秀論文賞を、本田秀仁准教授が日本認知科学学会大会発表賞を受賞するなど、教員陣の活躍も顕著であった。

本年度末にて、人工知能・認知科学専攻を開設から支えた井佐原均教授がご退職となった。これまでのご貢献に心より感謝を申し上げたい。本年度も豊田弘司教授が心理学部長として尽力されている。また、副学部長は東正訓教授ならびに小野田、心理学研究科長は永野浩二教授、心理学研究科専攻主任は三川俊樹教授、学科長は小野田がその任に当たっている。

2024年度心理学科専任教員

教 授	井佐原 均（認知科学）
教 授	浦 光博（社会心理学）
教 授	小野田慶一（認知脳科学）
教 授	金政 祐司（社会心理学）
教 授	櫻井 鼓（臨床心理学）
教 授	庄野 修（機械学習・深層学習）
教 授	瀧端真理子（博物館学・資格課程）
教 授	竹下 秀子（発達心理学）
教 授	豊田 弘司（教育心理学）
教 授	永野 浩二（臨床心理学）
教 授	馬場 天信（臨床心理学）
教 授	東 正訓（社会心理学）
教 授	鋒山 泰弘（教育学・資格課程）

教 授	丸野 進 (認知科学)
教 授	三川 俊樹 (カウンセリング心理学)
教 授	溝部 宏二 (臨床心理学)
准 教 授	大神田麻子 (発達心理学)
准 教 授	駿地真由美 (臨床心理学)
准 教 授	田中 秀明 (認知神経心理学)
准 教 授	辻 潔 (臨床心理学)
准 教 授	廣瀬 智士 (認知科学)
准 教 授	本田 秀仁 (意志決定科学)
准 教 授	増井 啓太 (社会心理学)
准 教 授	益田 啓裕 (臨床心理学)
講 師	荒木 浩子 (臨床心理学)
講 師	神崎 真実 (教育心理学)
講 師	木村 大樹 (臨床心理学)
講 師	嶋 大樹 (臨床心理学)
講 師	宮川 裕基 (社会心理学)
特任准教授	菰刈 寛仁 (認知科学)
特任助教	石田 拓也 (臨床心理学)
特任助教	大塚 結喜 (実験心理学)
特任助教	河嶋 珠実 (臨床心理学)
特任助教	小林 和弘 (機械学習)
特任助教	白砂 大 (認知科学) (9月まで)
特任助教	田中 宏明 (社会心理学)
特任助教	谷 恵介 (認知科学)

心理学実験準備室

定時職員 松浦 志帆

2024年度非常勤講師

計30名 (敬称略)

- 1 浅 野 龍 平
- 2 太 田 公 子
- 3 河 崎 俊 博
- 4 木 原 香代子
- 5 熊 本 勝 重
- 6 小 島 康 生
- 7 白 砂 大 (9月より)
- 8 鈴 木 史 子
- 9 高 島 遼 一
- 10 高 橋 平 明
- 11 田 邊 亜 澄
- 12 種 村 文 孝
- 13 玉 水 克 明
- 14 永 原 直 子

- 15 西 川 恵
- 16 仁 科 国 之
- 17 新 田 耕 佑
- 18 林 武 文
- 19 深 山 理
- 20 別 役 透
- 21 本 郷 節 之
- 22 真 下 幸 三
- 23 光 廣 可奈子
- 24 宮 本 郷 子
- 25 宮 元 正 博
- 26 森 上 幸 夫
- 27 山 口 孝 貴
- 28 芳 田 茂 樹
- 29 吉 村 直 人
- 30 我 妻 秀 範

追手門学院大学 地域支援心理研究センター

2024年度の事務スタッフ

委託社員 水野 友絵 (統括リーダー)
委託社員 郡山 智恵 (プロジェクトリーダー 本室)
委託社員 辻本 理絵 (サブプロジェクトリーダー 本室) 8/31まで
委託社員 中村由美子 (本室) ※11月より分室勤務
委託社員 加地 愛 (本室)
委託社員 前田 元子 (本室) 11/1から
委託社員 石黒 幹子 (サブプロジェクトリーダー 分室)
委託社員 吉田 明子 (分室) ※11月より本室勤務

2024年度心理学科講演会

・2024年度第1回学科講演会

日 時：2024年11月 6 日 4 限 (15：45～17：30)

演題名：トラウマインフォームドケア

講 師：亀岡 智美 先生 (兵庫県こころのケア
センター副センター長兼研究部長)

亀岡智美先生は、和歌山県立医科大学を卒業され、大阪府立病院などに勤務された後、事件・事故・災害等によるトラウマ・PTSD等に関する研究や研修、相談・診療などを専門に行う兵庫県こころのケアセンターで現職に就かれた。日本子ども虐待防止学会の代議員など、要職を務められている。先生

は、児童青年期精神科医、日本精神神経学会専門医として、こどもの臨床に豊富な経験をお持ちであり、中でもトラウマ関連障害の臨床を専門とされている。子どものトラウマ関連障害への第一選択治療として国際的に効果が実証されているトラウマフォーカスト認知行動療法（Trauma-Focused Cognitive-Behavioral Therapy：TF-CBT）を実践、研究されており、今回の演題である「トラウマインフォームドケア（Trauma-Informed Care：TIC）」については、手引きの翻訳、関連著書の発行をされるなど、当概念をわが国に取り入れた第一人者である。以下、当日の講演の概要を紹介する。

TICとは、1990年代に主にアメリカで発展してきた概念であり、専門的なトラウマ治療とは異なり、トラウマについての理解を深め、サービスの多様な局面でトラウマへの癒しを大切にしようとする支援の基本概念との説明がなされた。

そもそもトラウマとは「心的外傷」とも訳され、こころのケガと理解されるものである。トラウマになる出来事としては、自然災害、犯罪被害、事故、いじめなどが挙げられる。すなわち、子どもや若者が生活場面で出遭う可能性の大きいものであり、世界精神保健調査（Kessler et al., 2017）においては、回答者の約7割が1つ以上のトラウマ出来事を経験していたと報告されているという。最近注目されている逆境的小児期体験（Adverse Childhood Experiences：ACEs）の研究では、ACEsのうち4つ以上の出来事が累積すると、身体疾患や精神疾患にかかる確率が高まることが示されており、トラウマへのケアが大切になると説かれた。

このように、個人の健康や幸せを左右するトラウマではあるが、身体外傷のように目に見えないために、周囲の人は、トラウマを負った子どもの反応を、その子ども自身に問題があるかのように誤解してしまうという。また、トラウマを負った子どもは拒絶的であったり、やる気がなさそうに感じられたりしてしまうために、支援者側が、子どもに対抗的になったり、関わらないようになってしまうことも起きる。このような悪循環を断つためには、相手はトラウマを負っているかもしれないと想像する「トラウマメガネ」でその人の行動を見ることが大切になる。

TICの6つの基本原則は、①安全、②信頼性と透明性、③ピアサポート、④協働と相互性、⑤エンパワメント、意見表明と選択、⑥謙虚さに対応性、がある。また、TICの前提条件である4つのRは、

①Realize（知識をもつ）、②Recognize（気づく）、③Respond（対応する）、④Resist re-traumatization（再トラウマの予防）、であるという。これらの要素が組み込まれたケアが必要であり、ケアにあたっては、相手のこころの内を想像し、安心感をもってもらえる対応が必要になると説かれた。そういったケアを行うことによって、クライアント自身の内省が可能になるという。

支援者自身のメンタルヘルスの問題についても、TICの概念が有効となる。支援者が、困難なケースに対応するときにはストレスを感じ、バーンアウトや二次受傷につながることもある。よって、最適なケアを提供するためには、トラウマケアは負担の大きい業務であるという認識を組織全体で共有するとともに、支援者自身が適切なセルフケアを優先することが大切であると強調された。

講演は、亀岡先生の豊富な臨床経験、研究に裏打ちされた内容であり、当日は質問が多く出されるなど、大変有意義な会となった。

（報告者：櫻井 鼓）

・地域支援心理研究センター開設20周年記念講演会 （第16回）

茨木市×追手門学院大学連携講座 追手門学院大学地域支援心理研究センター講演会（第16回）は、2020年度・2021年度・2022年度・2023年度はCOVID-19の蔓延により中止となったが、2024年度は、地域支援心理研究センター開設20周年記念講演会として第16回講演会を企画した。今回は、茨木市×追手門学院大学連携講座を一旦中断して、茨木市・茨木市教育委員会の後援で開催した。

テーマ：「当事者から見た『発達障害と脳の多様性（ニューロダイバーシティ）』」

講 師：横道 誠（京都府立大学文学部准教授）

司 会：溝部 宏二

場 所：追手門学院大学総持寺キャンパスA421教室

日 時：2025年2月22日（土曜日）13：30～15：00

主 催：地域支援心理研究センター

後 援：茨木市・茨木市教育委員会

対 象：発達障害当事者・家族、支援者（教員・心理士・福祉士等）、大学院生、一般市民

講師について：

文学博士（京都大学）。ドイツ文学の研究の傍ら、宗教2世（エホバの証人2世）、発達障害（自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症）などの当事者として、数多くの自助グループを運営している。2021年、

自身を対象とした当事者研究の成果を『みんな水の中―「発達障害」自助グループの文学研究者はどんな世界に棲んでいるか』として出版。2022年の著書『唯が行く！～当事者研究とオープンダイアログ奮闘記～』では、自助グループで行う「オープンダイアログ的な対話実践」についてまとめた。2024年に「ニューロマイノリティ ～発達障害の子どもたちを内側から理解する～」を編集し、ニューロマイノリティという最新の概念の啓蒙に努めている。

講演の概要：

近年、発達障害（神経発達症）を「病理」や「障害」の枠組みから解きはなとうとする動きが、当事者の側から活発になってきている。その基礎にある考え方は、全人類が「脳の多様性」（ニューロダイバーシティ）を生きていて、発達障害者は「脳の少数派」として、発達障害のない「脳の多数派」とは異なる体験世界を生きていて、というものだ。今回の講演ではこの見地に立って、発達障害の当事者として活動する横道誠が、どういう仕方でも発達障害の当事者（成人、子ども両方）を効果的に支援していけるかについて具体的な提案をおこなった。

（報告者：溝部 宏二）

心理学専任教員の研究活動

井佐原均教授

1) 研究活動

自然言語処理技術をはじめとする人工知能技術の研究開発を行った。具体的には対話ロボットの開発、観光情報提供支援の研究、医療情報提供支援の研究、外国語学習システムの開発を行った。

2) 研究助成

- ・科研費基盤（B）「学習者の発話を適切に把握する新しい音声認知手法の開発とその英語教育での実証」研究代表者
- ・科研費基盤（B）「曖昧検索技術を用いたユーザフレンドリーな観光情報提供に関する実証研究」研究分担者
- ・豊橋技術科学大学との共同研究「スマートホスピタル共同研究講座における音声入力によるAI自動問診・カルテ作成支援システムに関する研究」研究分担者

3) 社会活動

- ・（特非）言語資源協会理事、（特非）言語グリッドアソシエーション理事、（一社）通訳品質評議会理事、産業日本語研究会世話人会代表幹事、（一社）

AIデータ活用コンソーシアム理事・副会長、知的財産高等裁判所専門委員、ISO/TC37 国内委員会委員長

- ・兵庫県立川西緑台高等学校模擬授業、2024年7月
- ・芦屋市公民館、秋の公民館講座「世界はニュースだけではわからない」講師。「生成AIの現状と未来―可能性と限界を探る―」、2024年9月

4) 研究発表・講演

- ・Application of NLP to Medical Practice and Tourism, Hitoshi Isahara and Kyoko Kanzaki, China-Japan Natural Language Joint Promotion Conference (CJNLP) 2024, 2024年9月
- ・診察音声からの要点自動抽出の試み、井佐原均、神崎享子、Japio YEAR BOOK 2024、2024年9月
- ・言語と国際標準、井佐原均・神崎享子、言語政策研究への案内、村岡英裕・上村圭介（編）、くろしお出版、2024年10月
- ・Corpus of Tourism Information and Its Applications, Hitoshi Isahara and Eiko Yamamoto, The 5th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC), 2024年10月
- ・Collection and utilization of dialogue corpora in medical and nursing care settings, Kyoko Kanzaki and Hitoshi Isahara, The 5th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC), 2024年10月

5) 所属学会

- ・言語処理学会、情報処理学会、人工知能学会、電子情報通信学会、日本認知科学会

浦 光博教授

研究活動

社会的孤立・孤独の予防に関する研究を進めた。また社会的孤立・孤独の予防に関する研究開発に関して、JST-RISTEXの共創的研究開発プロジェクトの総括として、令和3年から5年度に採択された15件のプロジェクトの伴走支援を行い、令和6年度の公募に応募された提案の審査を行った。加えて、JSTのムーンショット型研究開発事業の目標9「2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」の外部専門評価委員会の主査として目標9の2024年マイルストーン達成評価を行った。

研究助成

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）（代表）社会的孤立・孤独の生起メカニズムの解明と一次予防策の探究

社会活動

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）ムーンショット研究開発事業目標9外部専門評価委員
 国立研究開発法人科学技術振興機構・社会技術研究開発センター（JST-RISTEX）戦略的創造研究推進事業（社会技術開発）SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築）総括

所属学会

日本社会心理学会、日本グループ・ダイナミックス学会、日本心理学会、日本教育心理学会、産業・組織心理学会

学会活動

日本社会心理学会理事

小野田慶一教授

1) 研究活動

- ・統合情報理論による脳活動解析
- ・fMRIを用いた精神・神経疾患の発症予測

2) 研究助成

- ・科研費基盤（C）（代表）「統合情報理論にもとづく意識の創発メカニズムの検証」
- ・科研費基盤（B）（分担）「中高年のこころの習慣と脳のコホート研究－精神的健康の予測と改善を目指して」
- ・科研費基盤（B）（分担）「感情制御を妨害するemotion differentiationの心理生理学的メカニズムの解明」
- ・科研費基盤（C）（分担）「優れたクロードスキlpパフォーマンスをもたらす脳活動の同定」
- ・挑戦的研究（萌芽）（分担）「mind-blankingを中核としたうつに伴う集中困難の新たな精神病理モデルの構築」

3) 論文

Onoda K, Akama H. (2024) Exploring complex and integrated information during sleep. *Neuroscience of Consciousness*, niae029, doi: 10.1093/nc/niae029.

Yoshimura S, Shimomura K, & Onoda K. (2024) Diminished negative emotion regulation through affect labeling and reappraisal: insights from functional near infrared spectroscopy on lateral prefrontal cortex activation. *BMC Psychology*, 12, 613, doi: 10.1186/s40359-024-02103-y.

小野田慶一（2024）生理心理学者はAIとどう向き合うか. *生理心理学と精神生理学*, 2411si, doi: 10.5674/jppp.2411si.

4) 学会発表・講演

小野田慶一（2024）意識はどこから. 千葉大学先進科学プログラムオムニバスセミナー, 6月7日, 千葉.

小野田慶一・赤間啓之・寒重之・宮内哲（2024）. 統合情報量Φは意識状態と連動するか—睡眠時のEEG-fMRI同時測定データによる検証— 第42回日本生理心理学会大会, 5月25日, 横浜.

石倉杏莉・小野田慶一・入戸野宏（2024）. かわいい動画の共同視聴における表情変化 第42回日本生理心理学会大会, 5月26日, 横浜

Onoda K, Miyauchi S, Kan S, Akama H. (2024) Decreased integrated information Φ during sleep and anesthesia in Human fMRI. 27th Association for the Scientific Study of Consciousness, July 6, Tokyo.

Kawagoe T, Yoshimura S, Muranaka S, Xethakis L, and Onoda K. (2024) Developing and Validating the Mind Blanking Questionnaire. 27th Association for the Scientific Study of Consciousness, July 6, Tokyo.

小野田慶一・赤間啓之（2024）統合情報量Φは意識状態と連動するか—プロポフォール麻酔下のfMRIデータによる検証—. 日本心理学会第88回大会, 熊本.

堀真奈実・小野田慶一（2024）なぜ他者に依存する人は決断できないのか—依存傾向と前頭前野の関係—. 日本心理学会第88回大会, 熊本.（特別優秀発表賞授賞）

5) 所属学会

日本心理学会, 日本生理心理学会, 日本臨床神経生理学会, 日本神経科学会

6) 学会役員

日本生理心理学会監事・編集委員

金政祐司教授

1) 研究活動

社会的孤立・孤独と親密な関係内の暴力との関連性の検討：個人特性と属性を踏まえて
 スピードデーティングを用いた対人魅力の規定因に関する研究

2) 研究助成

学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）
 課題番号23K02843（研究代表者）

2023年4月～2026年3月

学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）
 課題番号21K02973（研究分担者）

親密関係の開始から深化にいたる継続基盤の転換

プロセス：幻想主義から現実主義へ

2021年4月～2025年3月

3) 社会活動

講演会等

大阪府警主催「防犯対策高度化協働研究会」の有識者委員 2018年2月～現在に至る

4) 著書論文

著書

金政祐司 (2024). 特集 子育て支援に活かそう！アタッチメント：(3) アタッチメントの評価チャイルドヘルス, 27 (11), 837-840. 診断と治療社

論文

李 葦理・金政祐司・三浦 麻子 (2024). 非就業者への自己責任論に対する相対的剥奪の効果. 社会心理学研究, 39 (3), 169-179.

<https://doi.org/10.14966/jssp.2022-007>

Asano, R., Kanemasa, Y., Komura, K., & Ito, K. (in press). The Interdependent Nature of Well-Being: Evidence from American and Japanese Spouses. *Personality and Social Psychology Bulletin*. Advance online publication.

<https://doi.org/10.1177/01461672241285180>

Kanemasa, Y., Miyagawa, Y., & Arai, T. (in press).

Attachment anxiety and the Dark Triad increase stalking after breakups of romantic relationships through psychological maltreatment of romantic partners and reactions to breakups. *Aggressive Behavior*. Advance online publication.

<https://doi.org/10.1002/ab.22133>

学会発表

金政祐司・宮川裕基・古村健太郎 (2024). アタッチメントスタイルが被社会的排斥経験を介して心理的IPV加害に及ぼす影響 日本発達心理学会第35回大会 8PM1-P-PS14. 【大阪国際交流センター】

金政祐司・古村健太郎・宮川裕基 (2024). Dark Triadが社会的排斥を介して将来的な心理的IPV加害を増大させるプロセスについての検討 日本心理学会第88回大会 1A-042-PC. 【熊本城ホール】

宮川裕基・Zhang Jia Wei・金政祐司・古村健太郎・谷口淳一 (2024). セルフ・コンパッションは恋愛関係の質を向上させるのか—自尊心の影響を加味した3波縦断調査による検討 日本心理学会第88回大会 1C-021-PC. 【熊本城ホー

ル】

荒井崇史・金政祐司・宮川裕基 (2024). 被拒絶感と親密関係における暴力加害—支配欲求と関係満足度の媒介効果 日本心理学会第88回大会

3D-002-PC. 【熊本城ホール】

金政祐司・宮川裕基・古村健太郎 (2024). アタッチメントスタイル、社会的排斥、心理的IPVの縦断的関連—3波の縦断調査からの検討 日本社会心理学会第65回大会, P0308. 【日本大学文理学部】

宮川裕基・Zhang Jia Wei・古村健太郎・谷口淳一・金政祐司 (2024). セルフ・コンパッションと心理的暴力及び関係満足度の関連—配偶者ペアデータを用いた検討 日本社会心理学会第65回大会, P0104. 【日本大学文理学部】

謝新宇・黄 瑤・相馬敏彦・古村健太郎・金政祐司 (2024). 親密な関係の感情相互依存に対する愛着傾向の調整効果—Dynamic APIMを用いる追試研究— 日本パーソナリティ心理学会第33回大会, P1-31. 【筑波大学】

古村健太郎・金政祐司・宮川裕基 (2024). アタッチメントネットワークのパターン 日本パーソナリティ心理学会第33回大会, P1-31. 【筑波大学】

6) 所属学会

日本社会心理学会・日本グループ・ダイナミックス学会・Asian Association of Social Psychology・日本心理学会・日本感情心理学会・日本パーソナリティ心理学会・日本教育心理学会・日本発達心理学会・Society for Personality and Social Psychology

7) 学会役員

日本心理学会専門別代議員

日本心理学会編集委員

櫻井 鼓教授

1) 研究活動 (海外出張などを含む)

- ・「若者への性的グルーミング研究」(国際協力NGOチャイルド・ファンド・ジャパンとの共同研究)
- ・「オンラインゲームにおける子どものグルーミング研究」(国際協力NGOチャイルド・ファンド・ジャパンとの共同研究)

2) 研究助成 (文部科学省科研費などを含む)

- ・科研費「自画撮り被害における児童の送信行動に影響を与える要因と被害予防教育の指標の検討」基盤研究 (C) (2021年～2024年) 研究代表者
- ・科研費「事件・事故の被害者等調査困難な人を対

象とするインターネット調査の課題と対策」基盤研究 (C) (2022年～2025年) 研究協力者

- ・交通事故被害者の継続支援の方法に関する研究 (公益財団法人交通事故総合分析センター・科学警察研究所・杏林大学・追手門学院大学の共同研究) (2024年～2027年)

3) 社会活動 (講演会講師などを含む)

- ・内閣府「実証的政策立案のための性暴力被害の把握の在り方に関する調査研究事業」検討会委員
- ・こども家庭庁「こどもに対して教育、保育等を提供する場における性暴力の防止等の取組を横断的に促進するための指針の作成等に関する調査研究」委員
- ・こども家庭庁「インターネットの利用を巡る青少年の保護の在り方に関するワーキンググループ委員」委員
- ・警察庁交通局 令和6年度交通事故被害者サポート事業検討会 委員
- ・兵庫県こころのケアセンター 客員研究員
- ・武蔵野大学 心理臨床センター 客員研究員
- ・奈良市立春日中学校主催 職員研修講師 (2024年1月9日 春日中学校)
- ・大阪府警察本部主催「性犯罪被害者の心理」講師 (2024年1月24日 大阪府警察本部)
- ・内閣府オンライン研修「こども・若者の性被害の現状と対応～教育現場にむけて～」講師 (2024年2月～ 内閣府HPオンデマンド)
- ・静岡県臨床心理士会主催「被害者の実情と支援の実際」講師 (2024年2月18日 レイアップ御幸町ビル)
- ・横浜市立東山田中学校「第2学年講演会」講師 (2024年3月4日 横浜市立東山田中学校)
- ・奈良市教育委員会主催「服務規律研修講座 (エキスパート研修)」講師 (2024年3月21日 奈良市教育センター)
- ・認定NPO法人子どもの心理療法支援会主催「2023-2024年京都精神分析・臨床セミナー」講師 (2024年4月21日 ハートピア京都)
- ・警察庁長官官房犯罪被害者等施策推進課主催「カウンセリング (初級) 専科」講師 (2024年6月28日 関東管区警察学校)
- ・横浜思春期問題研究所主催SCセミナー「PFA」講師 (2024年7月14日 オンライン)
- ・東京ウィメンズプラザ主催「性暴力被害者支援のための研修」講師 (2024年8月2日 オンライン)
- ・伊勢原市学校警察連絡協議会研修会・児童生徒指

導研修会・教育相談セミナー「子どもへの性暴力～最近の動向を踏まえた理解と対応～」講師 (2024年8月22日 伊勢原市役所)

- ・広島県男女共同参画財団主催「SNS利用による性暴力からこどもたちを守るために」講師 (2024年9月26日 オンライン)
- ・兵庫県警察本部主催「犯罪被害者支援～こどもの心理を知る」講師 (2024年9月30日 兵庫県警察学校)
- ・富山県女性財団主催「DV等防止啓発講座」講師 (2024年11月15日 富山県民共生センター)
- ・金沢市、石川県人権啓発加津等ネットワーク協議会共催「金沢市DV防止啓発講演会」講師 (2024年11月28日～2025年1月31日 金沢市公式Youtube)
- ・千葉県警察本部主催「SNSと子どもの性被害・加害 ～理解と効果的な支援のために～」講師 (2024年11月26日 千葉県警察少年センター)
- ・宮城県主催「犯罪被害者等支援専門職研修会」講師 (2024年12月13日 フォレスト仙台)

4) 著書・論文

- ・櫻井 鼓 (2024). 性的グルーミング 健康教室, 75 (2), 98-101.
- ・櫻井 鼓 (2024). 性的グルーミングという犯罪 『世界』982号 (pp.122-128) 岩波書店
- ・チャイルド・ファンド・ジャパン・櫻井 鼓・上田 順一 (2024). Report on the Investigation Results of Grooming Targeting Young People (若者を対象としたグルーミングに関する調査結果報告書) チャイルド・ファンド・ジャパンHP
- ・櫻井 鼓・横浜思春期問題研究所 (編著) 『SNSと性被害 ー理解と効果的な支援のためにー』誠信書房 2024年
- ・櫻井 鼓『「だれにも言っちゃだめだよ」に従ってしまう子どもたち』WAVE出版 2024年
- ・櫻井 鼓 (2024). 子どもの性被害とSNS 子どもの虐待とネグレクト 26, 337-342.

5) 学会発表

- ・日本トラウマティック・ストレス学会第23回大会シンポジウム「きょうだいを亡くしたこどもへのケア」企画者・座長 (2024年8月6日 オンデマンド配信)
- ・日本犯罪心理学会第62回大会企画ミニシンポジウム「大会企画ミニシンポジウム「犯罪被害者等への途切れない支援」指定討論者 (2024年9月15日 福山大学)

6) 所属学会

日本トラウマティック・ストレス学会, 日本犯罪心理学学会, 日本心理学会, 日本被害者学会, 日本精神分析的心理療法フォーラム, 日本心理臨床学会

7) 学会活動 (役職, 委員など)

- ・日本トラウマティック・ストレス学会 編集委員会 編集幹事
- ・日本トラウマティック・ストレス学会 被害者支援委員会 委員
- ・日本被害者学会 編集委員会 委員

8) 資格取得・その他

- ・臨床心理士
- ・公認心理師

庄野 修教授

1) 研究活動

- ・遮蔽状況下での動画予測の研究
- ・車載カメラ動画での動画予測における奥行き情報活用の効果についての研究
- ・時系列データからの表現学習の研究

2) 研究助成

特になし

3) 社会活動

特になし

4) 著書・論文

特になし

5) 学会発表

- ・第27回画像の認識・理解シンポジウムMIRU2024でのポスター発表1件

6) 所属学会

日本神経回路学会・日本神経科学学会・IEEE・日本情報処理学会

7) 学会活動 (役職, 委員など)

特になし

8) 資格取得・その他

特になし

竹下秀子教授

■研究活動

本学着任後の教育研究活動では、時代と地域の社会文化によって変容する発達のさまざまな、進化の視点を含めつつ捉えることを目指している。とりわけ、生物進化の一面面としての個体発達の改変とこれに対応して個人と社会の育児力を高めえたことが人間の発達進化を導いたという理解を

ベースに、「非定型」の発達に着目する。本年度も、1) 複数言語文化環境にある子どもの参加を得た研究を進め、2) 子育て環境の諸困難への支援にかかわるフィールド研究を継続した。

■学会発表

林美里・竹下秀子・梅田裕介・山田丈美 (2025).

比較認知発達の視点から見たヒトの初期言語発達一行為の文法と階層性, オノマトペ, ジェスチャーに着目して, 一般社団法人 日本発達心理学会第36回大会, 明星大学, 2025年3月4日〜6日.

■講演

2024年11月10日

講座名: 2024年度 モンキーキャンパス

テーマ: コミュニケーションの比較発達 一母と子が生みだすもの

場 所: 日本モンキーセンター 世界サル類動物園内 (愛知県犬山市) ビジターセンターホール

2025年2月25日

講座名: 2024年度 大阪市私立保育連盟研修会

テーマ: ヒトはどのようにヒトになるのか〜赤ちゃんから学ぶ

場 所: 大阪府教育会館 たかつガーデン

■研究助成

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C)

「公立小学校在籍の外国人児童への日本語習得と学修へのエンパワメント」(研究代表者: 竹下秀子, 助成期間: 2020/04〜2025/03)

■学会活動 (役職, 委員など)

日本子ども学会 (理事), 日本赤ちゃん学会 (評議員), 臨床発達心理士認定運営機構資格更新委員会 (委員), 日本臨床発達心理士会滋賀支部 (事務局担当役員)

■社会活動

京都大学野生動物研究センター熊本サンクチュアリ運営委員会 (委員), 大型類人猿情報ネットワーク運営連絡会 (委員)

■所属学会 (会員)

日本発達心理学会, 日本子ども学会, 日本赤ちゃん学会, 日本動物心理学会, 日本霊長類学会, 日本乳幼児医学・心理学会, 日本小児保健協会, 日本臨床発達心理士会, 日本重症心身障害学会

■取得資格

臨床発達心理士

豊田弘司教授

最近の研究課題

- 情動知能の個人差と記憶の関係
- 仮想場面法による原因帰属の検討
- 自己概念が対人認知や適応に及ぼす効果

研究助成

令和3（2021）年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（一般）、研究課題名「偶発学習に及ぼす想起されたエピソードの効果および学習者の情動処理能力の個人差」、研究代表者（令和3年度～令和6年度）。令和7年度まで延長継続

著書

- ・第5章 学習習慣と学習方略『大学生と教員のための学校教育心理学』ミネルヴァ書房 61-79、2024年3月20日

論文

- ・偶発記憶における自伝的精緻化の有効性を規定するエピソードの属性 追手門学院大学心理学部紀要（18），1-14.（増田羽恭と共著）

学会発表

- ・単語とエピソードの適合性と意図記憶における自己選択効果 日本心理学会第88回大会（熊本城ホール）2024年9月6日～8日（ポスター発表日、9月6日）
- ・意図記憶における自己選択効果と情動制御能力の個人差 日本教育心理学会第66回総会（アクトシティ浜松）2024年9月14日～9月16日（ポスター発表日、9月14日）
- ・意図記憶における分散効果と情動の制御と調節—日本版WLEISによる個人差の検討— 関西心理学会第135回大会（大阪人間科学大学）2024年11月3日（口頭発表）

所属学会

日本心理学会，日本教育心理学会，日本認知心理学会，日本発達心理学会，関西心理学会

学会役員

日本教育心理学会理事，関西心理学会顧問

資格

学校心理士

永野浩二教授

1）研究活動（研究テーマ）

- ・パーソンセンタード・アプローチのカウンセリング、エンカウンター・グループ、フォーカシングの実践と研究

- ・パーソンセンタード・アプローチを応用した「幸せな働き方・生き方」に関する実践と研究
- ・臨床家のPersonal Developmentに関する研修会の実施と研究
- ・ダイアログ（Open Dialogue及びAnticipation Dialogue）に関する実践と研究

2）研究助成

- ・学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）求職者の柔軟性を高めるプロセス重視型キャリア支援プログラムの構築 課題番号19K03361（研究分担者）2019年4月～2025年3月
- ・学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）クライエントの体験過程レベル自動判定システム開発の臨床心理的基礎研究 課題番号22K03151（研究分担者）2022年4月～2025年3月

3）社会活動

- ・研修会講師「新しいコミュニティ創造の試み～PCAやオープンダイアログのこれから～」オープンダイアログカレッジ2023 本山智敬・永野浩二・村山尚子・高松里・井内かおる 一般社団法人オープンダイアログ・アプローチ研究会 FLAT主催 2024年2月6日（Zoom開催）
- ・「EGカフェin東京」ファシリテーター 法眼裕子・永野浩二主催 2024年2月10日（於：Healing Room YURIKAGO）
- ・EGカフェin大阪 ファシリテーター 永野浩二・法眼裕子 2024年2月25日（於：男女共生センターローズWAM）
- ・パーソンセンタード・アプローチの学びに関する研究会 ファシリテーター 2023年3月9日・10日（於：南山学園研修センター）
- ・研修会講師「パーソンセンタード・アプローチ＜ベーシック＞」2024年6月29日～30日（於：南山大学D棟）南山大学 人間関係研究センター主催 青木剛・永野浩二・山根倫也
- ・研修会講師 フォーカシングを学ぶ 主催：こくり 2024年7月22日（於：NPO法人こくり）
- ・研修会講師「フォーカシング・ワークショップ」関西フォーカシング研究会主催 2024年8月3日～4日 於：近畿大学
- ・「ファシリテーター・トレーニング・グループ」オーガナイザー 2024年1月20日、2月18日、3月16日、5月18日、6月15日、7月20日、8月11日～13日（2泊3日の宿泊型）、10月19日、11月16日（8月以外は全てZoom開催）
- ・「EGカフェ@オンライン2024」ファシリテーター

大下智子・法眼裕子・永野浩二 2024年 8月18日
(Zoom開催)

・茨木市立 男女共生センター ローズWAM スーパーバイザー

・茨木市立茨木小学校学校協議会委員

・大阪府立春日丘高等学校 学校運営協議会委員長

4) 著書・論文

著書

・永野浩二 (2024) 第21章 PCAGIPの本質を考える—その哲学と態度を生きるには?— 村山正治・中田行重 (編著), PCAGIP法の実践 対人援助職を支える新しいパラダイム, p173-182. 創元社 2024年11月20日

論文

・永野浩二 (2024) クライアントが自分自身を受容していくプロセス 神戸松蔭こころのケア・センター臨床心理学研究, 19,70-75. 神戸松蔭こころのケア・センター 2024年 8月

・村山正治・石田陽彦・藤中隆久・野村陽子・南陽子・永野浩二・中田行重 (2024) 現代の対人援助職の研修・訓練としてのPCAGIP 法の意義 関西大学心理臨床センター紀要, 15,45-53. 関西大学大学院心理学研究科心理臨床センター 2024年 3月

・森川友子・永野浩二・平井達也・福盛英明・福田尚法 (2024) 公共職業安定所における求職者カウンセリングのプロセスに関する探索的研究 人間科学 6,22-37. 九州産業大学人間科学会 2024年 3月

5) 学会発表

・Hirai, T., Nagano, K., H.Fukumori. & Y.Morikawa. (2024) Understanding your therapist developing process through experiential workshop: Learning from master therapist research PCE2024 (The16th WORLD CONFERENCE for Person-Centered and Experiential Psychotherapy and Counseling) 2024年 9月10日

・H.Fukumori, T.Aoki, Y.Morikawa, E.Takeda, T.Hirano, K.Nagano (2024) Exploratory Acoustic Analysis of Speech Fluency Dependent on Experience Level in Trial Focusing PCE2024 (The16th WORLD CONFERENCE for Person-Centered and Experiential Psychotherapy and Counseling) 2024年 9月10日

・日本心理臨床学会若手の会企画シンポジウム “経験”を心理職としての専門性にどのように活かすか—ライフイベントや心理職以外の経験を臨床家の成長に活かす— 司会：樽本美穂・榊原久直 話題提供者：鬼頭智美・東海林渉・西田千尋 指定討論者：若佐美奈子・永野浩二 日本心理臨床

床学第43回大会

・永野浩二・白井祐浩・河崎俊博・並木崇浩 (2024) 人としてのセラピストのセルフ・ディベロップメントⅡ—体験的ワークを通して考える— 日本心理臨床学会第43回大会自主シンポジウム (Zoom開催) 2024年10月 4日

・白井祐浩・永野浩二・並木崇浩・河崎俊博 (2024) 人としてのセラピストのセルフ・ディベロップメントⅠ—PCAの視点から— 日本心理臨床学会第43回大会自主シンポジウム (Zoom開催) 2024年 9月20日

・永野浩二・河崎俊博 (2024) 臨床家のPersonal Developmentを考える～自己信頼・評価の源泉を内側に育むために～ 日本人間性心理学会第43回大会プログラム・発表論文集, 62, (於：KDDI維新ホール) 2024年 9月27日

・河崎俊博・永野浩二 (2024) 心理臨床家のPersonal developmentをめぐる実践 日本人間性心理学会第43回大会プログラム・発表論文集, 104. (於：KDDI維新ホール) 2024年 9月29日

・松原小夏・永野浩二 (2024) 大学生における援助要請スタイルと愛着及びソーシャルサポートの関連 日本応用心理学会第90回大会発表論文集, 93. (於：帝塚山大学) 2024年 8月28日

・下茂翔太郎・永野浩二 (2024) 大学生の心理的敏感さとレジリエンス及び首尾一貫感覚との関連 日本応用心理学会第90回大会発表論文集, 94. (於：帝塚山大学) 2024年 8月28日

・福盛英明・青木剛・森川友子・竹田悦子・永野浩二・平野智子 (2024) トライアルフォーカシングセッションにおけるフォーカサーの声の音声分析の試み—音声の高さ・強さに着目して— 日本人間性心理学会第43回大会プログラム・発表論文集, 133. (於：KDDI維新ホール) 2024年 9月28日

6) 所属学会

日本人間性心理学会、日本心理臨床学会、日本学生相談学会、日本産業ストレス学会、WAPCEPC (パーソンセンタード&体験過程療法／カウンセリング国際学会) 日本トラウマストレス学会

7) 資格

臨床心理士 公認心理師

8) 書評・その他

なし

9) 受賞

ロジャーズ賞受賞 (於：日本人間性心理学会第44回大会)

馬場天信教授

1) 最近の研究活動

- ・対人関係論・関係精神分析による精神分析的な心理療法の実践事例研究
- ・アレキシサイミアのメンタライジング能力、感情調整機能、感情処理の問題に関する基礎的研究

2) 社会活動

- ・京都精神分析心理療法研究所セミナー・プラス Small Group Supervision①講師「対人関係精神分析の鍵概念」(2024年5月11日: Zoom)
- ・京都精神分析心理療法研究所セミナー・プラス Small Group Supervision①講師「詳細質問」講師(2024年5月25日: Zoom)
- ・京都精神分析心理療法研究所 基礎学習プログラム (BL-P) コースワーク講師 (2024年6月1日: Zoom)
- ・京都精神分析心理療法研究所セミナー・プラス Small Group Supervision①講師「関与しながらの観察」(2024年6月8日: Zoom)
- ・京都精神分析心理療法研究所セミナー・プラス Small Group Supervision①講師「エナクトメント」(2024年6月22日: Zoom)
- ・京都精神分析心理療法研究所セミナー・プラス Small Group Supervision②講師「対人関係精神分析の鍵概念」(2024年10月19日: Zoom)
- ・第22回慢性痛の心理アセスメント研究会 講師・症例助言者「慢性疼痛臨床への対人関係精神分析の活用」(2024年10月13日: ハイブリット開催 (於) 日本臓器製薬本社)
- ・京都精神分析心理療法研究所セミナー・プラス Small Group Supervision②講師「自己開示と助言」(2024年10月26日: Zoom)
- ・京都精神分析心理療法研究所セミナー・プラス Small Group Supervision②講師「逆転移の活用」(2024年11月16日: Zoom)
- ・京都精神分析心理療法研究所セミナー・プラス Small Group Supervision②講師「解釈」(2024年11月30日: Zoom)
- ・令和6年度厚生労働省 慢性疼痛診療システム均てん化事業近畿地区 心と身体の痛みセミナー「慢性疼痛診療における精神分析的な心理療法再考」講師「精神分析的アセスメントの視点を学ぶ: 治療関係の理解へと繋げる」(2025年1月25日: ハイブリット開催 CIVI研修センター新大阪東E704)
- ・2024年度対人関係精神分析セミナー第6回「様々

な学派から見た相互交流」対話者および事例発表者 (2025年3月2日: Zoom)

3) 著書・論文

Komaki, G., Baba, T., Yoshida, T., Arimura, T., Moriguchi, Y & Maeda, M. (2024). Development of a structured interview for the modified version of the Beth Israel Hospital psychosomatic questionnaire for alexithymia. *Frontiers in Psychiatry*, 15. <https://doi.org/10.3389/fpsy.2024.1356643>

馬場天信 (2024). 第2章 臨床心理学 4. 心理療法 1. クライアント中心療法 2. 精神分析療法 3. 遊戯療法 中川明仁・江越正次郎・長谷川裕・高橋圭三 (編) *Crosslink basic 心理学・臨床心理学* (pp.122-133) メディカルビュー社

馬場天信・平岡 薫・興津真理子 (2024). 学童期における家族内での食卓体験と青年期における摂食障害傾向との関連性——食卓経験尺度の信頼性・妥当性の検討—— 追手門学院大学心理学部紀要, 19, 21-36.

4) 学会発表

- ・馬場天信 (2024). 対人関係精神分析 (関係論) に基づく患者理解と見立て、介入 シンポジウム6 第65回日本心身医学会総会ならびに学術講演会, 24, 6月29日 (於: 東京一橋講堂)
- ・馬場天信 (2024). メンタライズされた感情認識尺度 (MAS) 日本語版の信頼性と妥当性の検討: アレキシサイミア傾向との関連性 第65回日本心身医学会総会ならびに学術講演会, 6月30日, ポスター発表 (於: 東京一橋講堂)
- ・小牧元・馬場天信・義田俊之・有村達之・守口善也・前田基成 (2024). 「アレキシサイミア」再考ー構造化面接法の開発を通して 第65回日本心身医学会総会ならびに学術講演会, 6月30日, ポスター発表 (於: 東京一橋講堂)

5) 所属学会

日本心理臨床学会, 日本心理学会, 日本心身医学会, 日本精神分析学会, 日本ロールシャッハ学会, 日本健康心理学会, 日本パーソナリティ心理学会, 日本感情心理学会, 精神分析的な心理療法学会, 等

6) 学会活動

日本精神分析的な心理療法フォーラム理事 (2020年12月~現在)
京都府臨床心理士会私設心理相談担当理事 (2024年8月~現在)

7) 資格

- ・臨床心理士（2002年 4月）
- ・公認心理師（2019年 4月）
- ・KIPP認定精神分析の心理療法家（2015年 2月）
- ・日本精神分析学会認定心理療法士（2019年11月）
- ・KIPP認定精神分析の心理療法スーパーヴァイザー（2023年 8月）
- ・Certification of Intensive Psychoanalytic Psychotherapy Program at the William Alanson White Institute (IPPP)（2023年 5月）
- ・In recognition of the completion of Year II Intensive Psychoanalytic Psychotherapy Clinical Workshop (IPPP Second year)（2024年 5月）

東 正訓教授

＜学会発表＞

- ・東 正訓（2024）．速度超過運転行動の規定因に関する統合モデルの構築 日本交通心理学会第89回福岡大会（2014年 6月 2日口頭発表、於 福岡工業大学）

＜講演その他＞

- ・東 正訓（2024）．交通安全キャンペーンを効果的に進めるために 交通科学研究会主催「地域交流会」（2024年 9月13日、於 松江テルサ（松江勤労者総合福祉センター）研修室1）

＜学会役員＞

「日本交通心理学会」運営委員、「交通科学」編集委員、一般社団法人交通科学研究会理事および会長

＜所属学会＞

日本心理学会、日本社会心理学会、日本交通心理学会、日本応用心理学会、交通科学研究会

＜社会活動＞

公益財団法人高速道路研究会フェロー会員、大阪府安全運転管理者講習特別講義講師、奈良県安全運転管理者講習特別講義講師

丸野 進教授

＜研究活動＞

アバターロボティクスによる主体感インタフェースの研究と構築実証

- (1) 主体感に必要な主要知覚情報の研究
- (2) 仮想空間における自己視の実証研究
- (3) 現実世界から仮想世界へのマッピング実証研究
- (4) 仮想空間中の物体把持並びに圧覚制御データグローブによるインタフェース実証研究

＜研究助成＞

- ・追手門学院大学2024年度 プロジェクト型共同研究 奨励費制度（タイプB）人間らしさの探求と創成
- ・追手門学院大学2024年度 共創的研究奨励制度

＜学会・論文賞受賞＞

◆IEVC2024最優秀論文賞受賞

IEVC2024 Best Paper Award to Hiroyoshi Komobuchi and Susumu Maruno, “Stability Enhancement in VR Hand Manipulation through Dynamic Truss Structure Connections,” International Conference on Image Electronics and Visual Computing.

◆2024年度第52回画像電子学会年次大会 学生発表奨励賞受賞

石川 大翔（菰淵 寛仁，丸野 進），“仮想空間での時間感覚操作による作業効率向上の検討”，2024年度第52回画像電子学会年次大会，#7 [S5-1]

＜対外講演・学会発表・論文＞

- ・石川 大翔，菰淵 寛仁，丸野 進，“仮想空間での時間感覚操作による作業効率向上の検討”，2024年度第52回画像電子学会年次大会，#7 [S5-1]，学生発表奨励賞受賞
- ・大林 洸斗，菰淵 寛仁，丸野 進，“VRを用いた筋トレ継続意欲向上手段の検討”，2024年度第52回画像電子学会年次大会，#8 [S5-2]
- ・小佐々 颯，菰淵 寛仁，“丸野 進 仮想空間を活用したイメージハンパの効果の定量的評価”，2024年度第52回画像電子学会年次大会，#22 [S6-3]
- ・土居 優太，菰淵 寛仁，丸野 進，“実空間と仮想空間の姿勢不一致が没入感へ及ぼす影響”，2024年度第52回画像電子学会年次大会，#21 [S6-4]
- ・長坂 奎太郎，菰淵 寛仁，丸野 進，“車幅感覚の効率的習得を目指したVRドライビングシミュレータの基礎検討”，2024年度第52回画像電子学会年次大会，#20 [S6-2]
- ・菰淵 寛仁，丸野 進，“仮想空間内gaze trackingによる把持精度向上と運動主体感への影響”，第46回 VR心理学研究委員会，映情学技報，vol.48, pp. 29-32（2024）.

＜所属学会＞

画像電子学会，日本機械学会

三川俊樹教授

＜研究活動／最近の研究課題＞

- ・学校教育におけるキャリア教育の推進
- ・カウンセリングにおけるスーパービジョンとスーパービジョン・メンタリングのモデル構築

・保育所の養育機能および学校のエデュケーション機能を活用した家庭支援

<研究助成>

・令和2（2020）年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（一般）、研究課題名「キャリアコンサルティングにおけるスーパービジョン・メンタリングのモデル構築」（課題番号：20K03350）、研究代表者（令和2年度～令和6年度）。

<論文・著書>

- ・三川俊樹 スーパービジョンとメンタリングの構造に関する一考察（4） 追手門学院大学心理学部紀要, 18, 15-31. 2024年3月
- ・四宮康亮・三川俊樹 キャリア・アダプタビリティの概念化と測定（3）—キャリア・アダプタビリティ尺度の開発とキャリアレジリエンスとの関連の検討 追手門学院大学心理学論集, 32, 11-24. 2024年3月
- ・三川俊樹 進路指導・キャリア教育の歴史と変遷（第7章） 春日井敏之・山岡雅博（編著）『生徒指導・進路指導』〔第2版〕（新しい教職教育講座 教職教育編⑪）ミネルヴァ書房, Pp.107-126. 2024年8月
- ・三川俊樹 キャリア教育を支えるキャリア・カウンセリングとは 月刊『生徒指導』, 54（11）, 16-19. 学事出版 2024年10月

<学会等研修会>

- ・日本キャリア・カウンセリング学会第29回大会「ライブ・スーパービジョン」（スーパーバイザー）2024年11月24日（於：山梨大学）
- ・日本キャリア・カウンセリング学会研修委員会&SV委員会合同企画「スーパービジョン入門講座」第1回「スーパービジョンをもっと身近に—スーパービジョン、さあ行こう！」（オンラインライブ配信, 2024年5月19日）、第2回「スーパービジョンでは何を取り上げ、どのように援助するのか？」（オンラインライブ配信, 2024年9月8日）、第3回「効果的なスーパービジョンができるスーパーバイザーになるために」（オンラインライブ配信, 2024年12月1日）
- ・日本学校心理士会2024年度大会 研修講座⑥「カウンセリングにおけるスーパービジョンの活用」（オンデマンド配信）2024年10月27日～11月5日

<社会活動：講演会・研修会等>

- ・NPO法人現代カウンセリングセミナー 令和6年度4月公開月例研修会「多様性に生かすカウ

セリングを支える—基礎的・汎用的なスーパービジョンの活用」2024年4月13日（オンラインライブ配信）

- ・阪南市立西鳥取公民館 カウンセリング講演会「ピンチをチャンスに変える『心理学』—心穏やかに生きるためのヒント」2024年4月20日（於：西鳥取公民館）
- ・摂津市教育委員会 キャリア教育に係る研修会「キャリア教育の推進に向けて—キャリア・カウンセリングについて」2024年6月3日（於：摂津市立別府小学校）
- ・高知県教育委員会 令和6年度小・中学校キャリア教育担当者地区別協議会 講義・演習「小・中連携し、キャリア・カウンセリングを活用したキャリア・パスポートについて」『郷土に対する愛着を高めるキャリア教育の取組について』中部地区：2024年6月7日（於：土佐市複合文化施設 つな一で）、東部地区：2024年6月24日（於：安田町文化センター）、西部地区：2024年6月28日（於：中村地区建設協同組合会館）
- ・独立行政法人教職員支援機構 令和6年度キャリア教育指導者養成研修（第1回） 講義・演習「児童生徒の発達を促す③—キャリア・カウンセリングの基盤としてのコミュニケーションスキルの向上」2024年6月12日（於：パレプラン高志会館）
- ・兵庫県教育委員会 令和6年度県立高等学校進路指導部長会 講義「キャリア・カウンセリングについて」2024年6月19日（於：兵庫県立総合教育センター）
- ・福岡県教育センター 令和6年度県立学校等新任校長研修会 講義「教職員のメンタルヘルス」2024年7月9日（於：福岡県教育センター）
- ・兵庫県保育協会 東播磨地区保育協議会第67回東播磨地区保育研究大会 記念講演「子どものほめ方・叱り方—心の発達を促すコミュニケーション」2024年7月20日（於：稲美町文化会館コスモホール）
- ・京都市教育委員会 令和6年度生き方探究（キャリア）教育実践講座 講義・演習「キャリア・パスポートを活用したキャリア・カウンセリング—キャリア・カウンセリングを活用して『生き方探究パスポート』を充実させる」2024年8月1日（於：京都まなびの街 生き方探究館）
- ・高石市教育委員会 高石市子ども理解のための研修会 講義・演習「子どもの理解と支援に必要なコミュニケーションのポイント」2024年8月2日

- (於：高石市役所別館多目的ホール)
- ・奈良市教育委員会 令和6年度中堅教諭等資質向上研修(キャリア教育研修講座) 講義・演習「キャリア教育に関する概論と指導の在り方」2024年8月5日(オンラインライブ配信)
 - ・香川県教育委員会 令和6年度中堅教諭等資質向上研修Ⅱ 研究協議「キャリア教育における各校の取組と校種間連携」(コメント)、公開講演「キャリア教育の在り方」2024年8月6日(於：香川県教育センター)
 - ・一般社団法人大阪市私立保育連盟 大阪市保育施設等職員研修 連続講座Ⅲ(子育て支援) 講義・演習「対人援助の技術」2024年9月25日(於：府立労働センター エル・おおさか)
 - ・大阪市保育士・保育所等支援センター研修会「カウンセリングマインド」2024年10月4日(於：たかつガーデン)
 - ・小野市立小野南中学校 校内特活研修会(キャリア教育) 講義・演習「生徒の自己評価力等を高める関わりと生徒の主体性を育む対話(キャリア・カウンセリング)について」2024年10月7日(於：小野南中学校)
 - ・高知県教育センター 令和6年度2年経験者研修「県立学校研修」(高等学校) 講義・演習「キャリア・カウンセリングを通じた生徒指導」2024年10月11日(於：高知県教育センター)
 - ・追手門学院大学校友会 ホームカミング・デー2024(OIDAI アラムナイ・カルチャー) 講演「人生の転機を生きる—カウンセリングの新しい考え方」2024年11月3日(於：追手門学院大学総持寺キャンパス)
 - ・大阪府商工労働部雇用推進室 非常勤職員研修(スーパービジョン研修) 講義「スーパービジョンの理解と活用」2024年11月18日(於：大阪府立労働センター；エル・おおさか)
 - ・一般社団法人日本産業カウンセラー協会 関西支部 2024年11月度月例会 講演「中高年のキャリア支援—人生の転機を生きるための『対話』」2024年11月23日(於：大阪府立労働センター；エル・おおさか&オンラインライブ配信)
 - ・岐阜県教育委員会 令和6年度キャリア教育実践講座 講義・演習「キャリア発達を促すキャリア・カウンセリングの充実について」2024年11月25日(於：岐阜県総合教育センター)
 - ・京都府中学校教育研究会 令和6年度キャリア教育研究部会地域部長研究会(第2回) 講演「キャリ

ア教育の充実に向けて—キャリア・カウンセリングとキャリア・パスポートの活用」2024年12月16日(於：亀岡市交流会館)

- ・内閣官房内閣人事局 令和6年度管理監督者のためのメンタルヘルスセミナー 講義・演習「メンタルヘルス重要性、管理者としての心構えと実践等」2024年12月13日(オンラインライブ配信)
- ・大阪府商工労働部雇用推進室 非常勤職員研修(スーパービジョン研修) グループ・スーパービジョン(スーパーバイザー) 2024年12月20日・26日(於：大阪府立労働センター；エル・おおさか)

<社会的活動：委員、理事・評議員等>

- ・厚生労働省人材開発統括官 職業能力開発専門調査員 2020年11月14日～2026年11月13日
- ・内閣官房内閣人事局国家公務員健康増進等施策アドバイザー 2024年4月1日～2026年3月31日
- ・国立教育政策研究所 今後の生徒指導・進路指導研究センターにおける調査研究の在り方に関する懇談会委員 2024年5月23日～2025年3月31日
- ・岡山県教育委員会 スーパーサイエンスハイスクール岡山県立岡山一宮高等学校運営指導委員会委員 2024年6月1日～2025年3月31日
- ・京都府教育委員会 令和6年度幼児教育アドバイザー 2024年5月14日～2025年3月31日
- ・兵庫県教育委員会 令和6年度キャリア教育推進委員会委員 2024年6月3日～2025年3月31日
- ・茨木市社会教育委員(社会教育委員の会議議長) 2010年7月1日～
- ・茨木市青少年問題協議会委員・専門部会委員 2012年7月11日～
- ・茨木市中央公民館運営審議会委員 2014年5月1日～
- ・高石市いじめ防止対策推進委員会委員(委員長) 2016年7月1日～
- ・社会福祉法人なみはや福祉会評議員 2013年6月1日～
- ・公益財団法人関西カウンセリングセンター理事 2016年4月1日～

- ・一般社団法人日本産業カウンセラー協会 実技能力評価委員会委員 2019年4月1日～2025年3月31日

<表彰>

- ・令和6年度全国社会教育委員連合表彰(大阪府・茨木市) 2024年10月24日

<所属学会>

日本キャリアデザイン学会、日本キャリア・カウ

ンセリング学会、日本カウンセリング学会、日本教育心理学会、日本学生相談学会、日本キャリア教育学会、日本教育カウンセリング学会、日本青年心理学会

＜学会活動（役員、委員など）＞

日本キャリアデザイン学会理事・関西支部長、学校心理士認定運営機構認定委員会委員、日本カウンセリング学会常任編集委員、日本教育カウンセリング学会査読委員、日本学校心理士会大阪支部副支部長、大阪教育カウンセラー協会副会長

＜資格＞

認定スーパーバイザー・スーパービジョンメンター（日本キャリア・カウンセリング学会）、学校心理士スーパーバイザー（学校心理士認定運営機構）、上級教育カウンセラー（日本教育カウンセラー協会）

溝部宏二教授

1) 研究活動：

2010年度に開始したメインの研究テーマの一つである「精神療法を日本独自の視点から考える（日本語臨床）」を2024年度も継続して実施した。「日本独自の論理である西田哲学を通して日本独自の精神療法である内観を検討する」が具体的な研究対象と方法である。このテーマで指導を仰いでいた西園昌久先生の遺志を継ぎ、関連領域としての阿闍世コンプレックスの意義を再考中である。赴任当初から携わっている神経発達障害児への支援としての研究・実践もペアレント・トレーニングへ焦点化して継続している。諸機関との調整が付き2025年度から開始できる目途が立った。

2) 研究助成：

2024年度：無

3) 社会活動：

- ・2024年4月～地域支援心理研究センター地域住民への相談事業 1回／週 相談員（於：地域支援心理研究センター分室）
- ・スクールカウンセラーへの無料事例研究会主催 1回／3月（於：追手門学院大学地域支援心理研究センター本室）
- ・高槻市自殺未遂者支援事業事例検討会 スーパーバイザー 年3回：5月22日、8月28日、1月22日（於：高槻保健所）
- ・2024年7月1日～9月13日 無料発達相談会（先着5名）企画（於：追手門学院大学地域支援心理研究センター本室）

- ・2024年9月14日 起業家グループKyoto eggs定例会「経営者が知っておきたい自己コントロールについて『分かり合えない！』を知るコト～」講演（京都市こども未来館4階会議室）
- ・NPO法人こくり主催「第4回こくり大発表会」「『うつ』に関する誤解～『うつ病』の常識と非常識・家族が知るべきこと～」講演（イオン藤井寺ショッピングセンター2階イオンホール）
- ・福島県立福島高校2年生の研究課題に対するミニ講義「スマホ依存症」（追手門学院大学地域支援心理研究センター本室）
- ・2024年11月16日 地域支援心理研究センター開設20周年記念事例検討会「孤独を訴え続けてセラピー直後に自死した10代女性」企画・助言（於：追手門学院大学総持寺キャンパス）
- ・2025年1月14日～3月17日 無料発達相談会（先着5名）企画（於：追手門学院大学地域支援心理研究センター本室）
- ・2025年2月22日 地域支援心理研究センター開設20周年記念講演会「当事者から観た『発達障害と脳の多様性（ニューロダイバーシティ）』」企画・司会（於：追手門学院大学総持寺キャンパス）
- ・2025年3月3日 大阪府こころのほっとライン報告会「『分かり合えない』から始まる若者支援～『醜いモノは観にくい』を知るコト～」講演（於：マイドームおおさか）

4) 著書・論文：

溝部宏二（2024）．「生体防御精神医学『序』～『自己』と『非自己』の闘ぎ合い～」追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要，20，2-11

5) 学会発表：2024年度はなし

6) 所属学会：

日本精神神経学会（専門医）、日本心身医学会（専門医）、日本精神分析学会、日本内観学会（理事）、日本心理臨床学会

7) 学会活動：

日本内観学会理事

8) 資格取得：

医師免許、精神保健指定医、公認心理師、精神科専門医、心身医療「精神科」専門医、臨床心理士

大神田麻子准教授

研究活動

- ・子どもと大人におけるロボット認識に関する検討
- ・ジェンダーステレオタイプの発達
- ・就学前児におけるYes-No質問に対する反応バイア

スの発達の検討と文化比較検討

研究助成

- ・科学研究費助成事業 基盤研究 (C)「子どもと大人におけるロボット認識の検討 (研究課題番号: 23K03011)」(2023年~2026年)

学会発表

- 赤澤美玖・玉水克明・大神田麻子 (2024). 悪意の理解 日本心理学会第88回大会 熊本城ホール (熊本) 2024年9月6日~8日

論文

- 大神田麻子 (2024). ロボット認識におけるアニミズム 心理学評論, 66, 318-329.
- Meng, X., Okanda, M., Kanakogi, Y., Uragami, M., Yamamoto, H., & Moriguchi, Y. (2024). Gender stereotypes regarding power and niceness in Japanese children. *Royal Society Open Science*, 11, 230863. <https://doi.org/10.1098/rsos.230863> (査読付)
- Taniguchi, K., & Okanda, M. (2024). Children's animistic beliefs toward a humanoid robot and other objects. *Journal of Experimental Child Psychology*, 244, 105945. <https://doi.org/10.1016/j.jecp.2024.105945> (査読付)

所属学会

- 日本発達心理学会 日本心理学会 日本赤ちゃん学会

駿地真由美准教授

1) 研究活動

国内研修制度を活用し、京都大学大学院教育学研究科にて研究活動を行った (2024年4月1日~2025年3月31日)。女性乳がん体験者のposttraumatic growthに着目し、その様相や、かわる要因についての実証研究を行った。また、発達や行動上の困難を抱えた子どもとその家族に対する心理臨床の実践研究を行った。

2) 研究助成

- ・科研費基盤研究 (C)「乳がんサバイバーの病の体験過程におけるposttraumatic growth」(研究課題番号 20K03403) 研究代表者 (2020年4月1日~2025年3月31日)
- ・科研費基盤研究 (C)「女性乳がんサバイバーの病の体験過程における心理的成長: 身体的経験の側面からの解明」(研究課題番号 24K06607) 研究代表者 (2024年4月1日~2027年3月31日)

3) 社会活動

- ・神戸市立中央市民病院倫理委員会委員

- ・京都府AIDS/HIV派遣カウンセラー 他

4) 論文

- ・駿地真由美 (2024). 女性乳がんサバイバーのがんへの心理的適応, 身体の受容, 配偶者との情緒的関係の関連—媒介モデルの検討— *Journal of Health Psychology Research*, 37 (1), 37-45. <https://doi.org/10.11560/jhpr.231228198>

5) 学会発表

- ・駿地真由美 (2024). 乳がんサバイバーのセルフコンパッション、ボディイメージ、がんへの心理的適応の関連 日本心理臨床学会第43回大会 (対面大会: 2024年9月24日・於: パシフィコ横浜、Web大会: 2024年9月20日~10月17日)
- ・駿地真由美 (2024). 乳がんサバイバーの出来事の中心性と心理的適応—PTGの調整効果— 日本健康心理学会第37回大会 (2024年11月23日) (於: 別府大学)

6) 学会活動

- ・日本心理臨床学会第43回大会での研究発表司会ほか

7) 所属学会

日本心理臨床学会、日本ユング心理学会、日本箱庭療法学会、日本健康心理学会

8) 資格

- ・臨床心理士
- ・公認心理師

田中秀明准教授

研究活動

研究課題: 事象関連脳電位による顔知覚の研究

論文

- Tanaka, H., & Jiang, P. (2024). P1, N170, and N250 Event-related Potential Components Reflect Temporal Perception Processing in Face and Body Personal Identification. *Journal of Cognitive Neuroscience*, 36, 1265-1281. https://doi.org/10.1162/jocn_a_02167

共同研究・競争的資金等の研究課題

- 口紅の方が髪の変化よりも女性の顔の魅力を高めて顔知覚に関わる脳神経時系列処理へ強い影響を与える—高密度脳波計による検討— 公益財団法人 コーセーコスメトロジー研究財団 2023年度コスメトロジー研究助成 2023年12月~2025年12月 研究代表者, 田中秀明

社会における活動

関西心理学会 委員

Imaging Neuroscienceの査読者

所属学会

日本生理心理学会、日本心理学会、日本臨床神経
生理学会、日本認知心理学会、関西心理学会

辻 潔准教授

所属学会

日本心理学会、日本心理臨床学会、日本人間性心
理学会

資格

公認心理師 臨床心理士

廣瀬智士准教授

研究活動

- ・VR空間内での行為主体感・身体所有感・没入感の
測定
- ・多次元時系列データから低次元の個人差指標を抽
出する方法の開発

研究助成

- ・追手門学院大学プロジェクト型共同研究奨励費制
度（タイプA）「コミュニケーションの空気感の推
定と可視化による集団調和の実現」研究分担者
- ・挑戦的研究（萌芽）「子供の知的・発達障害の自動
的かつ客観的なスクリーニング検査の実現」研究
代表者

所属学会

- ・Motor Control 研究会
- ・日本神経科学学会

本田秀仁准教授

1) 研究活動

- ・人間が行う判断や意思決定の合理的な特徴につい
ての研究
- ・合理的な判断や意思決定を行わせるための介入法
（ナッジ、プースト）についての研究

2) 研究助成

- ・科学研究費助成金基盤研究B（研究代表者）テー
ラーメイドプースト：多様な認知プロセスに合わ
せた合理的意思決定促進法の構築
- ・令和4～6年度科学研究費補助金：基盤研究 B
（研究分担者）
認知バイアスから自閉症者の行動を探る：自閉症者
の診療場面における説明再考に向けて

3) 社会活動

- ・本田秀仁. (2024). 実験から認知バイアスについ
てどのような洞察が得られるのか？行動経済学会
第18回大会パネルディスカッション：実験を通じ

て考える行動経済学と心理学（話題提供）.

- ・本田秀仁. (2024). 日本認知科学会第41回大会
オーガナイズドセッション：認知科学研究は人工
知能研究に「借り」を返せるか？（オーガナイ
ザー）.

- ・本田秀仁. (2024). 情報の健康プロジェクト アテ
ンションエコノミーの暗翳と『情報の健康』—総
合知で創出する健全な言論空間：パネルディス
カッション①「情報の健康の実装とリテラシー」
（パネリスト）.

4) 著書・論文

- ・Otaki, Y., Honda, H., Onuki, Y., Shinohara, G., Otaki,
M., & Chaminda, T. (2024). Raising awareness for
sustainable faecal treatment using augmented reality.
Environmental Research and Public Health, 21, 1634.
- ・Honda, H., Kagawa, R., & Shirasuna, M. (2024). The
nature of anchor-biased estimates and its application to
the wisdom of crowds. Cognition, 246, 105758.
- ・Tsuji, S., Hashimoto, A., Yang, M., Honda, H., &
Tanaka, K. (2024). Audio-visual self-supervision
for frame-level player-wise offensive shot detection
in table tennis matches. Proceedings of the 7th ACM
International Workshop on Multimedia Content
Analysis in Sports (MMSports '24) (pp.27-33)
- ・Honda, H., Shirasuna, M., Kawaguchi, J., Matsuka,
T., & Ueda, K. (2024). On the ecologically rational
inference and memory-based judgment errors. In L.
K. Samuelson, S. L. Frank, M. Toneva, A. Mackey, &
E. Hazeltine (Eds.), Proceedings of the 46th Annual
Conference of the Cognitive Science Society (p.6162;
accepted for 6-page paper, but we chose to publish only
abstracts).
- ・Kagawa, R., Honda, H., & Nosato, H. (2024). Advice
design to increase the use of advice with an interval to
overcome algorithm aversion. In L. K. Samuelson, S. L.
Frank, M. Toneva, A. Mackey, & E. Hazeltine (Eds.),
Proceedings of the 46th Annual Conference of the
Cognitive Science Society (pp. 2732-2738).
- ・Iwatani, S., Honda, H., Otaki, Y., & Ueda, K. (2024).
Do default nudges lead people to make choices
inconsistent with their preferences: An experimental
investigation. In L. K. Samuelson, S. L. Frank,
M. Toneva, A. Mackey, & E. Hazeltine (Eds.),
Proceedings of the 46th Annual Conference of the
Cognitive Science Society (pp. 3528-3534).
- ・Shirasuna, M., Kagawa, R., & Honda, H. (2024).

Cognitive load in speed-accuracy tradeoff: Theoretical and empirical evidence based on resource-rational analyses. In L. K. Samuelson, S. L. Frank, M. Toneva, A. Mackey, & E. Hazeltine (Eds.), *Proceedings of the 46th Annual Conference of the Cognitive Science Society* (pp. 5115-5121).

5) 学会発表

- ・ Tsuji, S., Hashimoto, A., Yang, M., Honda, H., & Tanaka, K. (2024). Audio-visual self-supervision for frame-level player-wise offensive shot detection in table tennis matches. 7th International ACM Workshop on Multimedia Content Analysis in Sports, in Melbourne, Victoria, Australia.
- ・ Honda, H., Shirasuna, M., Kawaguchi, J., Matsuka, T., & Ueda, K. (2024). On the ecologically rational inference and memory-based judgment errors. 46th Annual Conference of the Cognitive Science Society, in Rotterdam, South Holland, the Netherlands.
- ・ Kagawa, R., Honda, H., & Nosato, H. (2024). Advice design to increase the use of advice with an interval to overcome algorithm aversion. 46th Annual Conference of the Cognitive Science Society, in Rotterdam, South Holland, the Netherlands.
- ・ Iwatani, S., Honda, H., Otaki, Y., & Ueda, K. (2024). Do default nudges lead people to make choices inconsistent with their preferences: An experimental investigation. 46th Annual Conference of the Cognitive Science Society, in Rotterdam, South Holland, the Netherlands.
- ・ Shirasuna, M., Kagawa, R., & Honda, H. (2024). Cognitive load in speed-accuracy tradeoff: Theoretical and empirical evidence based on resource-rational analyses. 46th Annual Conference of the Cognitive Science Society, in Rotterdam, South Holland, the Netherlands.
- ・ 本田秀仁・西原夢遥・白砂大・香川璃奈. (2024). 集約は類を呼ぶ～推定集約時の類似した他者意見選好の合理性分析～. HCGシンポジウム2024, B-6-2.
- ・ 杉本幸大・白砂大・香川璃奈・本田秀仁. (2024). ヒューリスティックの適応の活用～課題難易度に応じた使用パターンの分析～. HCGシンポジウム2024, B-6-3.
- ・ 本田秀仁・白砂大・川口潤・松香敏彦・植田一博. (2024). 不確実性下の合理的な推論が生み出す記憶に基づく判断の誤り. 日本認知科学会第41回大会, O-1-3.
- ・ 白砂大・香川璃奈・本田秀仁. (2024). 速さと正確さのトレードオフにおける適度な思考時間の存在: 資源合理的分析. 日本認知科学会第41回大会, O-1-2A.
- ・ 本田秀仁・香川璃奈. (2024). 関係性がないことを学習するのは難しい: 帰納バイアスを視点とする分析. 日本認知心理学会第22回大会, O1-1.
- ・ 楊明哲・橋本敦史・馬家昕・本田秀仁・田中一敏. (2024). 卓球の得点予測における重要要素の分析. DEIM2024, T5-A-9-02.

6) 所属学会

- ・ 行動経済学会
- ・ 日本心理学会
- ・ 日本認知科学会
- ・ 日本認知心理学会
- ・ Cognitive Science Society
- ・ Society for Judgment and Decision Making

7) 学会活動

- ・ 2020年6月－
Editorial Boards, Journal of Cognitive Science
- ・ 2021年1月－
日本認知科学会 運営委員
- ・ 2023年8月－
Review Editor, Frontiers in Psychology (section, Cognitive Science)
- ・ 2023年12月－
行動経済学会「行動経済学」編集委員

8) 受賞

- ・ 第41回日本認知科学会大会発表賞（共同発表者として）
白砂大・香川璃奈・本田秀仁. (2024). 速さと正確さのトレードオフにおける適度な思考時間の存在: 資源合理的分析. 日本認知科学会第41回大会, O-1-2A.

増井啓太准教授

1) 研究活動

- ・ Dark Tetrad（マキャベリアニズム、サイコパシー、自己愛性傾向、サディズム傾向の総称）傾向と社会適応との関連の検討
- ・ インターネット上の問題行動の生起メカニズムの検討
- ・ 孤独・孤立の抑制に関わる心理メカニズムの解明

2) 社会活動

ひょうご人権シンポジウム「多様化する社会を

どう生きるか 一県民意識調査の結果から」パネリスト 2024年11月

3) 著書・論文

Masui, K., Yoshizumi, R., & Nakajima, H. (2024). Men with high dark triad personality traits can accurately infer dark triad traits from other people's faces. *Frontiers in Psychology*, 15, 1363399.

Kambara, K., (他38名), Masui, K., et al., (in press). Can Online Interactions Reduce Loneliness in Young Adults During University Closures 1 in Japan? The Directed Acyclic Graphs (DAGs) Approach. *Asian Journal of Social Psychology*. <https://doi.org/10.1111/ajsp.12658>

4) 学会発表

Masui, K. (2024). The relationship between spitefulness and Internet trolling: The moderating effect of adverse childhood experiences. At the 25th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Diego (USA).

増井啓太 (2024). 孤独な人びとはダークサイドの人に助けを求めるのか? 日本社会心理学会第65回大会. 日本大学

増井啓太 (2024). ダークサイドの人と関係構築を求める人たち —Dark Triadの高い異性との関係構築希求に及ぼす評価者のDark Triadの影響— 日本心理学会第88回大会. 熊本城ホール

増井啓太 (2024). ネット荒らしの促進・抑制に関わる心理特性 公募シンポジウム「インターネット上の人々の行動とその影響 —コンピューター媒介コミュニケーション (CMC) 研究における学際的アプローチ—」 日本心理学会第88回大会. 熊本城ホール

伊藤みなみ・増井啓太 (2024). 心理的痛みの表現語の選定とその評価 日本犯罪心理学会第62回大会. 福山大学

中荒江大河・増井啓太 (2024). Dark Triadの他者操作方略とポジティブ側面への積極的注目との関連の検討 日本パーソナリティ心理学会第33回大会. 筑波大学

増井啓太 (2024). ダークなパーソナリティは顔のどの部分に現れるのか 日本パーソナリティ心理学会第33回大会. 筑波大学

5) 所属学会

日本心理学会、日本社会心理学会、日本犯罪心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本認知心理学会

6) 学会活動

日本社会心理学会33期役員選挙管理委員会

7) 資格取得・その他

該当なし

益田啓裕准教授

1) 研究活動

- ・福祉におけるケア概念の明確化について
- ・児童福祉施設に携わる心理職及び対人援助職の教育・トレーニングに関する研究
- ・ライフストーリーワークの理論的基盤に関する研究

2) 研究助成

- ・科学研究費補助金 (若手研究) 「児童福祉施設における生活のケアと心理的支援の明確化に関する研究」研究代表者 (2020年4月～2025年3月)

3) 社会活動

- ・ワークショップ講師 (ゼミ生との共同活動) 門真市公民連携子どもの居場所事業「子どもLOBBY」キャリア教育プロジェクト「小学生向けストレスマネジメントワークショップ」2024年5月26日 於: イズミヤ門真店
- ・研修会講師 (単独) 児童養護施設双葉学園職員研修会「ケースカンファの進め方について」2024年6月17日 於: 児童養護施設双葉学園
- ・研修会講師 第55回近畿児童養護施設研究協議会「児童養護施設の養育をひととく」2024年6月20・21日 於: シーサイドホテル舞子ビラ神戸
- ・講演会講師 (単独) 茨木市市民講座「支援の必要なこどもの未来のために～マルチトリートメントを防ぐには～」2024年6月28日 於: 茨木市男女共生センターローズWAM
- ・研修会講師 養育里親登録更新研修会「子どもの心理的理解とトラウマケア」2024年8月31日 於: サプリ村野
- ・研修会講師 (単独) 児童養護施設子供の家職員研修会「対話を通じ子どもケアの価値観と理論に馴染もう」2024年9月26日 於: 児童養護施設子供の家 (東京都清瀬市)
- ・研修会講師 (単独) 児童養護施設双葉学園職員研修会「フェイスシートを用いたケースカンファの進め方」2024年10月18日 於: 児童養護施設双葉学園
- ・研修会講師 (単独) 2024年度北摂児童施設連盟第1回北摂合同研修会「心理的支援を施設内でどのように共有して活用しているか」2024年11月19日

於：児童養護施設大阪西本願寺常照園

・研修会講師（単独）児童養護施設双葉学園職員研修会「ケースカンファでの工夫」2025年2月3日
於：児童養護施設双葉学園

・研修会講師（単独）児童養護施設職員研修会「ライフストーリーワークの基礎」2025年2月6日
於：児童養護施設たちばな学園

・研修会講師（単独）神戸市児童養護施設連盟スキルアップ研修「ソーシャルペダゴジーとチームアプローチ」2025年2月12日 於：神戸市立総合福祉センター

・研修会講師 令和6年度堺児童施設部会中堅職員研修「子どもの心理支援」2025年2月13日 於：児童養護施設東光学園

・研修会講師 養育里親登録更新研修会「子どもの発達とトラウマの理解」2025年2月22日 於：サブリ村野

4) 著書・論文

・益田 啓裕 (2024). 公認心理師カリキュラム「福祉心理学」受講による ウェルビーイング視点の獲得——社会的養護における児童虐待とその支援の認識の変化に着目して—— 福祉心理学研究 21 (1), 64-78.

・早川 洋・鈴木 隆文・中村 有生・益田 啓裕 (2024). 児童心理治療施設における入所児童の権利擁護に関する取り組みについての調査 心理治療と治療教育 全国児童心理治療施設協議会研究紀要35, 67-75.

5) 学会発表

・木村 秀・吉川 由紀子・千田 伸子・益田 啓裕 (2024). 「性的虐待から子どもを守る ～Child Protection Unit～の実践的導入を！」(第30回子ども虐待防止学会かがわ大会 自主シンポジウム) 指定討論者2024年11月30日 於：サンポート高松

・益田 啓裕・足立 泰代・田横 里奈・秦 香 (2024). 「児童福祉施設職員自身のアタッチメントを保障する試み——子どもをケアする人をケアする——」(第30回子ども虐待防止学会かがわ大会 自主シンポジウム) 企画者・発表者 (2024年12月1日) 於：JRホテルクレメント高松

6) 所属学会

International Society for Prevention of Child Abuse and Neglect, 日本心理臨床学会, 日本EMDR学会, 日本子ども虐待防止学会, 日本福祉心理学会, 日本ソーシャルペダゴジー学会 (理事), 日本児童青年精神医学会, 日本人間性心理学会

7) 資格

臨床心理士
公認心理師

荒木浩子講師

1) 研究活動テーマ

・学生相談室の運営、体制について
・HIV陽性者への心理的支援についての検討

2) 研究助成

なし

3) 著書・論文・その他の著作

・荒木浩子 (2024) 活動報告書, 追手門学院大学学生相談室 2023年度年報, 34号, 33-46

4) 学会発表

高橋紗也子・大山泰宏・荒木浩子・他9名, HIV陽性者にとって関係を結ぶこと—新型コロナウイルス下での試行カウンセリング事例の中断から—, 日本心理臨床学会 第43回大会 口頭発表 (2024年8月23日)

5) 所属学会

日本臨床心理学会、日本箱庭療法学会

6) 資格

臨床心理士, 公認心理士

神崎真実講師

1) 研究活動

・不登校経験者の社会文化的なライフコースの理解
・居場所感を形成する相互行為の特徴分析

2) 研究助成

・科研費基盤 (C) (分担) 「通信制高校の多様性に関する研究：カリキュラムの横断的・縦断的比較に基づいて」

3) 社会活動

・研修

「不登校」を通して学校のあり方を問い直す, 大阪府立人権教育研究会春季研修会および総会, 大阪府立水都国際中学校・高校, 2024年5月10日
人権教育セミナー「子どもの育ちと進路／生徒全体を支える居場所づくり」, 第66回大阪府人権教育夏季研究会, 大阪府国際交流センター, 2024年8月20日

伊丹市教育センタースーパービジョン研修「不登校後の社会的自立について考える」, 2024年8月27日

向陽台高校教職員研修「不登校支援とキャリア教育」, 2025年2月27日

・パネリスト等

メタバースで見える新しい教育（東京書籍×立命館大学共同研究キックオフシンポジウム）立命館大学大阪いばらきキャンパス（パネリストとして参加），2024年7月30日

日本青年心理学会若葉マーク企画「リサーチクエストを問い直す」札幌学院大学（企画・司会担当），2024年11月7日

「未来志向の活動を通じた居場所形成 ー新しい不登校支援の検証」日本生命財団 児童・少年の健全育成助成「第3回 実践的研究助成ワークショップ」，TKPガーデンシティ大阪淀屋橋，2024年11月17日

4) 著書・論文

Pratama,P., Yudiantoso, A., Kanzaki, M. (2024). CBT Effectiveness for reducing PTSD : A meta-analysis study, *Jurnal Intervensi Psikologi*, 16 (1), <https://doi.org/10.20885/intervensipsikologi.vol16.iss1.art9>

5) 学会発表

Kanzaki, M. (2024). Building one's own opinion, career, and life: Career formation among Japanese high school students. Invited Symposium titled Decolonizing the concepts of career and positive youth development. ICP2024, 26 July, 2024. Prague.

Kanzaki, M. (2024). Practices of cultural translation: Reflecting on the practices in summer school from a facilitator's perspective. Invited Symposium titled Why we need "cultural translation" of psychology terminologies for decolonization. ICP2024, 23 July, 2024, Prague.

神崎真実（2024）君たちはどう質的研究をするか：インタビューって何人に何回するといいの？小林智之・日高友郎・神崎真実・土元哲平・福田茉莉・サトウタツヤ・仲嶺 真 日本心理学会第88回大会 熊本城ホール，2024年9月6日

福市彩乃・鈴木華子・神崎真実・三宅琢・仲泊聡・伊坂忠夫・高橋政代（2024）．視覚障害者のwell-beingを考える上での「資源」とは——「支援」に代わる促進要因の提起 日本心理学会第88回大会 熊本城ホール，2024年9月6日

神崎真実（2024）不登校を通じたライフコース：日常の崩壊（ラブチャー）と青年期発達を考える シンポジウム「青年心理学と若者支援 ー不登校・ひきこもりの理解・援助と青年心理学ー 澤聡一・飯田昭人・神崎真実・村澤和多里・加

藤弘通 日本青年心理学会第32回大会，札幌学院大学，2024年11月9日

神崎真実（2024）居場所感を醸成するやりとりー正課外PJにおける高校生ー大学生ー教員の会話の質的分析 日本青年心理学会第32回大会，札幌学院大学，2024年11月9日

6) 所属学会

日本発達心理学会，日本青年心理学会，日本教育心理学会，日本質的心理学会，日本パーソナリティ心理学会，日本心理学会

7) 学会活動（役職，委員など）

日本青年心理学会 研究委員

8) 資格取得・その他

なし

木村大樹講師

1) 研究活動

・自閉スペクトラム症およびその傾向のある人のメンタリティと心理療法に関する研究

・箱庭療法の客観的作品評定システムの開発

・夢の日本人基準データの整備に関する研究

2) 研究助成（文部科学省科研費などを含む）

・追手門学院大学若手研究者奨励費制度「自閉スペクトラム症者と傾向者の夢の構造的特徴」（2024年7月～2025年3月）

3) 社会活動（講演会講師などを含む）

・滋賀県看護協会研修会「コミュニケーションスキルを習得しよう」（2024年8月27日）講師

4) 著書・論文

なし

5) 学会発表

・木村 大樹（2024）．仮面の融解——自閉スペクトラム症者も神経症になるのか—— 日本箱庭療法学会第37回大会（10月12－13日）（米子）口頭発表

6) 所属学会

日本心理臨床学会，日本箱庭療法学会，日本パーソナリティ心理学会（編集委員），日本質的心理学会，日本精神病理学会

7) 資格

・臨床心理士

・公認心理師

嶋 大樹講師

1) 研究活動

・アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）に基づく支援プログラム開発とプロセス

研究

- ・関係フレーム理論 (RFT) の基礎研究とその応用方法の開発
- ・ACTとRFTの架け橋研究
- ・Prosocialの社会実装
- ・プロセスベースセラピーの研究／実践方法の精緻化

2) 研究助成

- ・科学研究費補助事業 (若手研究) 「変容プロセスの視点に基づくアクセプタンスの作用機序の解明と臨床応用 (科研費研究課題番号: 23K1292)」研究代表者 (2023年4月-2027年3月)

3) 社会活動

- ・すいすい学べる認知行動療法オンラインゼミ (2024年4月-2025年4月)

4) 著書・論文

船津 萌実・嶋 大樹・武藤 崇 (2024). 月経前症候群による社会的症状の有無と心理的柔軟性の関連性 認知行動療法研究, 50, 101-109. <https://doi.org/10.24468/jjbct.23-009>

松野 航大・嶋 大樹・原 真太郎 (2024). すいすい学べる認知行動療法 — 行動療法の基本と認知療法、マインドフルネス — ナカニシヤ出版

嶋 大樹・熊野 宏昭・高橋 徹 (2024). 自閉スペクトラム症の特徴を持つうつ病患者に対する行動活性化 — マインドフルネスと価値の明確化の相互作用による補強 — 認知療法研究, 17, 266-275.

5) 学会発表

Shima, T. (2024). Preliminary study of a web-based self-help ACT program for mental health promotion among students. 33rd International Congress of Psychology, Poster presentation (Prague).

嶋 大樹 (2024). 大学生の心理的健康の保持増進に対するセルフヘルプACTプログラムの改訂 日本認知・行動療法学会第50回大会, ポスター発表 (横浜)

嶋 大樹 (2024). ACT総論〜パニック障害を例として〜 第37回日本総合病院精神医学会総会, シンポジウム話題提供 (熊本)

嶋 大樹・伊藤 雅隆 (2024). 臨床家がメタファー作成時に留意する事項の探索 — クライエントの「体験」に着目したテキストマイニングによる検討 — 日本心理学会第88回大会, ポスター発表 (熊本)

6) 所属学会

ACT Japan: The Japanese Association for Contextual Behavioral Science, Association for Contextual Behavioral Science, 日本マインドフルネス学会, 日本行動医学会, 日本行動分析学会, 日本心身医学会, 日本心理学会, 日本糖尿病学会, 日本認知・行動療法学会, 日本認知療法・認知行動療法学会, 日本心理臨床学会

7) 学会活動

- ・ACT Japan: The Japanese Association for Contextual Behavioral Science理事
- ・日本認知・行動療法学会編集委員
- 8) 資格・その他
- ・公認心理師
- ・臨床心理士

宮川裕基講師

1) 研究活動 (海外出張などを含む)

- ・セルフコンパッション (自分への思いやり) と親密な関係性における非人間化の関連性の検討
- ・対人目標と自己表現に関する研究

2) 研究助成 (文部科学省科研費などを含む)

- ・科学研究費補助事業 (基盤研究C) 親密関係の開始から深化にいたる継続基盤の転換プロセス: 幻想主義から現実主義へ 課題番号 21K02973 (研究分担者) 2021年4月-2025年3月
- ・科学研究費補助事業 (基盤研究B) 集合的効力感がDV抑制機能を果たす条件の解明: 社会生態的な予防介入に向けて 課題番号 23H01031 (研究分担者) 2023年4月-2028年3月

3) 社会活動 (講演会講師などを含む)

- ・令和6年度三重県スクールカウンセラー
- ・令和6年度三重県教育委員会リワーク支援相談員

4) 著書・論文

著書 (分担執筆)

宮川裕基 (2024). セルフ・コンパッションという自分との向き合い方 地域精神保健福祉機構コンボ (編) こころの元気 + 5月号 認定NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ

論文

Miyagawa, Y., & Niiya, Y. (2024). Psychometric validation of the Compassion Scale in Japan (CS-J). *Mindfulness*, 15 (7) 1665-1681. <https://doi.org/10.1007/s12671-024-02389-4>

Neff, K. D., & Miyagawa, Y. (2024a). State Self-Compassion Scale Long Form (SSCS-L) and

- Short Form (SSCS-S). In O. N. Medvedev, C. U. Krägeloh, R. J. Siegert, & N. N. Singh (Eds). *Handbook of Assessment in Mindfulness Research* (pp.1-13.). Springer. https://doi.org/10.1007/978-3-030-77644-2_105-1
- Neff, K. D., & Miyagawa, Y. (2024b). Self-Compassion Scale for Youth (SCS-Y). In O. N. Medvedev, C. U. Krägeloh, R. J. Siegert, & N. N. Singh (Eds). *Handbook of Assessment in Mindfulness Research* (pp.1-9.). Springer. https://doi.org/10.1007/978-3-030-77644-2_104-1
- Neff, K. D., & Miyagawa, Y. (2024c). Compassion Scale (CS). In O. N. Medvedev, C. U. Krägeloh, R. J. Siegert, & N. N. Singh (Eds). *Handbook of Assessment in Mindfulness Research* (pp.1-10.). Springer. https://doi.org/10.1007/978-3-030-77644-2_106-1
- 5) 学会発表
ポスター発表
- 宮川裕基・Zhang, J.W.・金政祐司・古村健太郎・谷口淳一 (2024). セルフ・コンパッションは恋愛関係の質を向上させるのか—自尊心の影響を加味した3波縦断調査による検討— 日本心理学会第88回大会
- 宮川裕基・Zhang, J.W.・古村健太郎・谷口淳一・金政祐司 (2024). セルフ・コンパッションと心理的暴力及び関係満足度の関連—配偶者ペアデータを用いた検討— 日本社会心理学会第65回大会
- 宮川裕基・谷口淳一 (2024). 配偶者との関係満足度に関わる真正・非真正自己表現とその動機づけ—思いやり目標と回避的自己イメージ目標の視点から— 日本グループ・ダイナミックス学会第70回大会
- 荒井崇史・金政祐司・宮川裕基 (2024). 被拒絶感と親密関係における暴力加害—支配欲求と関係満足度の媒介効果— 日本心理学会第88回大会
- 金政祐司・古村健太郎・宮川裕基 (2024). アタックメントスタイルが被社会的排斥経験を介して心理的IPV加害に及ぼす影響 日本発達心理学会第35回大会
- 金政祐司・古村健太郎・宮川裕基 (2024). Dark Triadが社会的排斥を介して将来的な心理的IPV加害を増大させるプロセスについての検討 日本心理学会第88回大会
- 金政祐司・宮川裕基・古村健太郎 (2024). アタックメントスタイルが被社会的排斥経験を介して心理的IPV加害に及ぼす影響 日本社会心理学会第65回大会
- 古村健太郎・金政祐司・宮川裕基 (2024). アタックメントネットワークのパターン 日本パーソナリティ心理学会第33回大会
- Skinner, I., Chai, W. J., Ramis, T., Ortiz, A., Miyagawa, Y., & Zhang, J. W. (2024). Self-compassion protects against the numeracy bias in compassion. The 2024 Society of Southeastern Social Psychologists conference
- Skinner, I., Zhang, J. W., Miyagawa, Y., Kanemasa, Y., Komura, K., & Taniguchi, J. (2025). A longitudinal and dyadic examination of self-compassion and relationship quality in Japanese couples. The 2025 SPSP Annual Convention
- 谷口淳一・宮川裕基・森下雄輔 (2024). 重要他者の表象活性化による初対面他者への自己呈示の相違 日本グループ・ダイナミックス学会第70回大会
- 谷口淳一・宮川裕基・森下雄輔 (2024). 低自己評価者の新規職場適応を支える重要他者の存在—関係的自己と真正な自己表現からの検討— 日本社会心理学会第65回大会
- 6) 所属学会
日本心理学会、日本社会心理学会、日本グループ・ダイナミックス学会、日本心理臨床学会、Society for Personality and Social Psychology、International Society for Self and Identity
- 7) 学会活動 (役職、委員など)
日本グループ・ダイナミックス学会事務局補佐
Editorial Board Member of Asian Journal of Social Psychology
- 8) 資格取得・その他
- ・公認心理師
 - ・臨床心理士
 - ・中学校教諭1種免許状 (英語)
 - ・高等学校教諭1種免許状 (英語)
- 菰淵寛仁特任准教授
- 研究活動 (研究テーマ)
- ・身体情報や位置情報等の物理情報センシングを通じた知覚情報処理の基本メカニズム構築
 - ・人工知能処理の基本メカニズムに基づく実用化研究 (繊細なハンドマニピュレーションの実現)

研究助成

- ・追手門学院大学2020年度 プロジェクト型共同研究奨励費制度（タイプB）人間らしさの探求と創成＜分担＞知覚情報処理とアバターロボティクス（研究者）

著書・論文・学会発表

- ・H.Komobuchi, S.Maruno. "Stability Enhancement in VR Hand Manipulation through Dynamic Truss Structure Connections," International Conference on Image Electronics and Visual Computing (IEVC2024 Best Paper Award).
- ・菰淵 寛仁, 丸野 進, "仮想空間内gaze trackingによる把持精度向上と運動主体感への影響", 第46回 VR心理学研究委員会, 映情学技報, vol.48, pp. 29-32 (2024).

＜以下は丸野ゼミにおける学生指導を通じたもの＞

- ・石川 大翔, 菰淵 寛仁, 丸野 進, "仮想空間での時間感覚操作による作業効率向上の検討", 2024年度第52回画像電子学会年次大会, #7 [S5-1], (学生発表奨励賞受賞)
- ・大林 洗斗, 菰淵 寛仁, 丸野 進, "VRを用いた筋トレ継続意欲向上手段の検討", 2024年度第52回画像電子学会年次大会, #8 [S5-2]
- ・長坂 奎太朗, 菰淵 寛仁, 丸野 進, "車幅感覚の効率習得を目指したVRドライビングシミュレータの基礎検討", 2024年度第52回画像電子学会年次大会, #20 [S6-2]
- ・土居 優太, 菰淵 寛仁, 丸野 進, "実空間と仮想空間の姿勢不一致が没入感へ及ぼす影響", 2024年度第52回画像電子学会年次大会, #21 [S6-4]
- ・小佐々 颯, 菰淵 寛仁, "丸野 進仮想空間を活用したイメージハンプの効果の定量的評価", 2024年度第52回画像電子学会年次大会, #22 [S6-3]

所属学会

- ・映像情報メディア学会
- ・画像電子学会

石田拓也特任助教

(1) 研究活動

- ・独立学派精神分析の視点から自己のまとまりについての病理学的研究
- ・効果的な初期臨床教育のための大学と現場の連携構築, および目標設定についての研究

(2) 社会活動

- ・支援を支援する体制と構造. 第93回奈良県臨床心理士会相互研修会「災害発生時における連携体制

構築に向けて, 臨床心理士の可能性を探る」.(講師) 2024年7月21日(奈良)

(3) 論文

- ・「選択」と心的な死: ポルノグラフィを結節点に, 精神分析的心理療法フォーラム, Vol.11: 88-91, 2024.
- ・「週1回」と介入技法 ワークショップによせて, 精神分析的心理療法フォーラム, Vol.11: 96, 2024.

(4) 学会発表

- ・力動的フォーミュレーションを学ぶ: 連想テキスト法入門. 日本精神分析的心理療法フォーラム第13回大会 大会企画ワークショップ. (企画・司会・事例提示). 2024年7月6日(大阪)
- ・精神分析的心理療法における非特異的要素を考える. 日本精神分析的心理療法フォーラム第13回大会. 大会企画ワークショップ. (企画・司会) 2024年7月7日(大阪)
- ・持続可能な臨床教育をめぐる一教育と臨床のCo-Empowermentを目指して. 日本心理臨床学会第43回大会 会員企画シンポジウム. (企画・司会). 2024年9月20日～10月17日(オンライン)
- ・心理療法において「夢見る経験」に至るまで: 独立学派の視点から. 日本心理臨床学会第43回大会 自主シンポジウム「精神分析の視点からみる夢の活用」.(シンポジスト). 2024年9月22日(オンライン)
- ・個室臨床教育の意義: 私設個人心理療法の経験から. 日本心理臨床学会第43回大会 自主シンポジウム「大学附設相談室における臨床教育の再考—臨床と教育の交差点という現場から—」.(シンポジスト). 2024年9月28日(オンライン)
- ・ネガティブとアート: 現代におけるネガティブの意義. 日本精神分析学会第70回大会 教育研修セミナー「ネガティブと精神分析」.(指定討論). 2024年11月8日(愛知)
- ・分析状況における解釈のクライマックス. 日本精神分析学会第70回大会 一般演題. 2024年11月9日(愛知)

(5) 所属学会

日本精神分析学会, 日本思春期青年期精神医学会, 日本心理臨床学会, 日本ウィニコット協会, 日本精神分析的心理療法フォーラム

(6) 学会活動

- ・日本ウィニコット協会 事務局担当理事
- ・日本精神分析的心理療法フォーラム 理事(ワークショップ委員、編集委員)

- ・日本思春期青年期精神医学会 運営委員, 編集委員

(7) 資格取得・その他

- ・臨床心理士
- ・公認心理師

大塚結喜特任助教

1) 研究活動

- ・「心の理論」を中心とする高齢者のコミュニケーション能力の低下メカニズムの解明
- ・ワーキングメモリの個人差を生み出す認知メカニズムの解明

2) 研究助成

日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究 (C)「加齢による社会性低下機構の解明—感情と抑制機能を中心とする検討」課題番号: 20K03497 (研究代表者) 2020年4月～2025年3月

3) 社会活動

OTEMON VIEW取材記事 (2024.6.28)「老害にはなりたくない」人の社会性のカギは脳の抑制機能? 認知心理学者とメカニズムに迫る
大阪府立枚方高等学校・出張授業 (2024.10.24)「心理学って何?」

4) 著書・論文

Otsuka, Y., Nakai, R., Shizawa, M., Itakura, S., Sato, A., & Abe, N. (2024). Brain structure variation and individual differences in theory of mind among older adults. *Aging Brain*, 5, 100115.

5) 学会発表

佐藤鮎美・大塚結喜・志澤美保・板倉昭二・縄手雅彦 (2024.9.21-22)「絵本活動を含む遊び全般が他者の心の理解発達に与える影響: 心の理論課題からの検討」第20回 日本子ども学会学術集会 (認定こども園 八戸文化幼稚園)

6) 所属学会

日本心理学会、日本ワーキングメモリ学会、Psychonomic Society

河嶋珠実特任助教

1) 研究活動

- ・ロボット介在療法／介在活動における治療効果の質的分析
- ・専門学校での学生相談機能の構造化に関する探索的研究

2) 研究助成 なし

3) 社会活動

- ・京都府臨床心理士会主催第85回研修会 (研修委員) 2025年2月9日 (京都府総合教育センター)

4) 著書・論文 なし

5) 学会発表

- ・河嶋珠実「京都文教大学心理臨床センターにおける臨床教育の取り組みについて—臨床補佐制度の意義—」, 日本心理臨床学会第43回大会自主シンポジウム「大学附設相談室における臨床教育の再考—臨床と教育の交差点という現場から—」(シンポジスト), 2024年9月29日 (オンライン)

6) 所属学会

- ・日本心理臨床学会, 日本緩和医療学会

7) 学会活動 なし

8) 資格取得・その他

- ・公認心理師, 臨床心理士

小林和弘特任助教

1) 研究活動

- ・発音採点システムを活用した日本人英語学習者の発音改善研究

2) 研究助成

- ・追手門学院大学研究支援制度個人研究費 (研究代表者)「英語発音推定AIを活用した英語指導に関する検討」

3) 社会活動

該当なし

4) 著書論文

該当なし

5) 学会発表

- ・小林 和弘, 荻田 健一, 丹羽 希碩, Lester P. Violeta, Wen-Chin Huang, 戸田 智基, “模擬電気喉頭音声コーパス,” 音響講演論文集, 2-Q-28, pp. 1221-1222, Sep. 2024.
 - ・L.P. Violeta, W.-C. Huang, D. Ma, R. Yamamoto, K. Kobayashi, T. Toda, "Electrolaryngeal speech intelligibility enhancement through robust linguistic encoders," IEEE ICASSP, pp. 10961-10965, Seoul, Korea, Apr. 2024.
 - ・D. Ma, Y. Choi, F. Li, C. Xie, K. Kobayashi, T. Toda, "Robust sequence-to-sequence voice conversion for electrolaryngeal speech enhancement in noisy and reverberant conditions," Proc. IEEE EMBC, pp. 1-4, Orlando, USA, July 2024.6)
- 6) 所属学会
- ・日本音響学会

・ IEEE

7) 学会活動 (役職、委員など)

・ 該当なし

8) 資格取得・その他

・ 該当なし

白砂 大特任助教

1) 研究活動 (海外出張などを含む)

・ 人の判断、特にヒューリスティックの適応的な使用に関する実験的・理論的な検証

・ 集団で行う判断のパフォーマンスに関する、計算機シミュレーションを駆使した理論的検証

・ 正確な判断を促す低コストの介入策、およびその際の認知プロセスに関する実験的検討

2) 研究助成 (文部科学省科研費などを含む)

特になし

※継続・分担として、「科学研究費助成金基盤研究 B・23K25169 (研究代表者: 本田秀仁)」

3) 社会活動 (講演会講師などを含む)

白砂大. (2024). アカデミスト academist Prize 第3期FINALイベント「若手研究者を投票で応援！」ショートピッチ ※依頼講演; academist Prize 3期生の一員として発表

白砂大. (2024). 問いに答える人の知性: 不確実性下の判断・不確実性への対処. 第23回 認知的コミュニケーションワークショップ. ※招待講演

白砂大. (2024). Ongoing challenge at CogSci ※依頼講演; CogSci2024現地参加者の一人として発表

白砂大. (2024). アカデミスト オンラインイベント「AI協働時代に研究者はどう生きるか」ショートピッチ ※依頼講演; academist Prize 3期生の一員として発表

4) 著書・論文

Honda, H., Kagawa, R., & Shirasuna, M. (2024). The nature of anchor-biased estimates and its application to the wisdom of crowds. *Cognition*, 246, 105758.

白砂大・小坂健太. (2024). 早押しクイズに見る不確実性下の判断: クイズ大会の行動データに基づく事例研究. *認知科学*, 31 (2), 352-361.

5) 学会発表

Shirasuna, M., Kagawa, R., & Honda, H. (2024). Cognitive Load In Speed-Accuracy Tradeoff: Theoretical and Empirical Evidence Based on Resource-Rational Analyses. *Proceedings of the 46th Annual Conference of the Cognitive Science Society* (pp. 5115-5121).

Honda, H., Shirasuna, M., Kawaguchi, J., Matsuka, T., & Ueda, K. (2024). On the ecologically rational inference and memory-based judgment errors. *Proceedings of the 46th Annual Conference of the Cognitive Science Society* (p.6162; accepted for 6-page paper, but we chose to publish only abstracts).

本田秀仁・西原夢遥・白砂大・香川璃奈. (2024). 集約は類を呼ぶ—推定集約時の類似した他者意見選好の合理性分析—. HCGシンポジウム2024, B-6-2.

杉本幸大・白砂大・香川璃奈・本田秀仁. (2024). ヒューリスティックの適応的活用—課題難易度に応じた使用パターンの分析—. HCGシンポジウム2024, B-6-3.

白砂大・香川璃奈・本田秀仁. (2024). 速さと正確さのトレードオフにおける適度な思考時間の存在: 資源合理的分析. 日本認知科学会第41回大会, O-1-2A.

本田秀仁・白砂大・川口潤・松香敏彦・植田一博. (2024). 不確実性下の合理的な推論が生み出す記憶に基づく判断の誤り. 日本認知科学会第41回大会, O-1-3.

6) 所属学会

- ・ 日本認知科学会
- ・ 日本認知心理学会
- ・ 行動経済学会
- ・ 人工知能学会
- ・ Cognitive Science Society
- ・ Society for Judgment and Decision Making

7) 学会活動 (役職、委員など)

【査読】

- ・ CogSci2024 full paper proceedings
- ・ Frontiers in Psychology (Environmental Psychology)

8) 資格取得・その他

【プレプリント】

Shirasuna, M. (2024). The evidence accumulation-based framework to explain human cognitive processes for considering quiz questions: A pilot study in Japan. PsyArXiv.

【webメディア】

QuizKnock取材記事『「早押しクイズの論文」が誕生! 書いた人にいろいろ聞いてみた』
アカデミスト研究者雑談コラボ企画「創造的対話クエスト」(待井長敏氏・阿部祐大氏との共同出演)

【受賞】

第41回日本認知科学会大会発表賞（白砂大・香川璃奈・本田秀仁による共著発表）
 academist Prize第3期FINALイベント「若手研究者を投票で応援！」エマージングテクノロジーズ賞

田中宏明特任助教

1) 研究活動（海外出張などを含む）

これまでの研究で、他者から排除された際に、対人不安の高い個人は、所属する学科集団ではなく家族集団の凝集性を高く評価することが示されている。この研究結果の解釈をやすくするため、学科集団と家族集団の成員からの受容予期の高さを調べる調査を準備している。また、この他に、地域の子どもの心理支援に関する研究の一環として、地域の中学校における学級の観察を行った。

2) 研究助成（文部科学省科研費などを含む）

該当なし

3) 社会活動（講演会講師などを含む）

地域の若者支援を行う施設と中学校において、学習支援活動を行った。

4) 著書・論文

該当なし

5) 学会発表

該当なし

6) 所属学会

日本心理学会・日本社会心理学会・日本グループダイナミクス学会・関西心理学会・The Society for Personality and Social Psychology

7) 学会活動（役職、委員など）

該当なし

8) 資格取得・その他

専門社会調査士

谷 恵介特任助教

1) 研究活動

- ・脳刺激を用いたヒトの空間定位メカニズムに関する研究
- ・重力空間におけるヒトの運動制御に関する研究
- ・身体運動中の触覚知覚特性についての研究
- ・自己運動の認知に関する研究

2) 研究助成

- ・科研費・若手研究（代表）「自己運動中のヒトの触覚特性の解明」2023年－2026年

3) 社会活動

なし

4) 著書・論文

- ・Tani, K., Naito, E., Mizobe, K., & Hirose, S. (2025). Right middle occipital gyrus is associated with egocentric spatial orientation during body tilt: Evidence from a repetitive transcranial magnetic stimulation study. *The European journal of neuroscience*, 61 (1), e16639.
- ・Okuuchi, S., Yamamoto, H., Tani, K., & Kushiro, K. (2024). Temporal properties of preparation phase for arm-pointing movements in various directions and distances. *Human movement science*, 96, 103256.
- ・Laakso, I., Tani, K., Gomez-Tames, J., Hirata, A., & Tanaka, S. (2024). Small effects of electric field on motor cortical excitability following anodal tDCS. *iScience*, 27 (2), 108967.

5) 学会発表

- ・盛山隆聖, 小寺紗千子, 谷恵介, 田中悟志, 平田晃正. (2024). TMSを用いた脳刺激における知覚・痛覚の閾値に関する誘導電界評価. 電子情報通信学会総合大会. B-19-30. 京都. 2024年3月

6) 所属学会

日本心理学会、基礎心理学会、北米神経科学会、基礎理学療法学会、神経理学療法学会、日本神経科学会、モーターコントロール研究会

7) 学会活動

- ・Frontiers in Psychology, Topic Editor in Gravitational Influence on Human Cognition and Behavior: Emerging Research

8) 資格取得・その他

理学療法士、日本バスケットボール協会D級コーチライセンス

2024年度心理学論集・特集 「職業としての心理学」題目一覧

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 兵庫 大輔 | 「こころ」と向き合う生業 |
| 板橋 裕子 | 教育・福祉の仕事と心理学 |
| 金谷 尚佳 | 児童相談所で働く心理職の実際 |
| 木村 将夫 | 「私」を振り返る ―福祉領域で働く対人援助職・教育研究職として |
| 木村 泰子 | 転機を乗り越えて今があるⅡ |
| 松田絵梨子 | 対人援助職と心理学 ―就労移行支援事業所とは |
| 長井 裕司 | 大学のキャリアカウンセラーについて |
| 西川 晶 | 私のやりたいことの探し方 |
| 鈴江秀一朗 | 人の成長・発達にかかわる心理学 |

田中 勝悟 開業カウンセラーとして生きていくと
いうこと ―コンテンツ・ビジネスとし
ての心理臨床

鳥井 崇行 障がい児通所支援事業所で働く心理職
の実際

大学院生の研究動向

2024年（令和6年）修士論文 題目一覧

M1

石田 沙織

・児童の放課後遊びテリトリーと学校での人間関係
の関連

齋村ちひろ

・親子の役割逆転が子どものメンタライズの能力に
及ぼす影響

分部 美紀

・摂食障害傾向を有する青年女子における身体錯覚
によるボディイメージ改善効果

中川 太平

・コラージュ制作中の主観的体験と作品に対する自
我親和性と自我異和性との関連について

三浦 真依

・ネガティブなライフイベントと意味付けの関連に
ついて

播本 貴之

・友達親子による不良行為への影響

土屋 沙愛

・児童福祉施設で働く施設職員の価値観について

北村 悠貴

・自己と他者のメンタライズ確信度の測定：CAMSQ
日本語版の作成

豊松ひなせ

・心理臨床の大学院生が初めてケースを持つ際に生
じるショックについて

矢永 志透

・キャライメージと友人関係満足感の関連について

南村 真菜

・メンタリングに関する研究

森本 彩水

・学習を拒否していた発達障害児が学習に取り組む
までのプロセス

M2

阪田 亜純

・養育者の内的ワーキングモデルおよび内省機能と

言葉かけの関連

藤原 杏実

・子どもが認知する母親の養育態度と内的作業モデ
ルが社交不安症状に及ぼす影響 ―注意の偏りお
よび安全確保行動を媒介要因として―

山内 椎名

・自己へのゆるしと恥および罪悪感との関連

長岡 涼華

・青年期における自己破壊行動の抑止に関する研究

加藤 愛

・青年期におけるひとりで行われる能力が心理的自
立および援助要請スタイルに及ぼす影響

中荒江大河

・Dark Triadの他者操作方略と自己及び他者のポジ
ティブ側面への積極的注目との関連の検討

大越 悠貴

・児童発達支援施設通所児の遊びと支援者の役割

牧野 航貴

・バーンアウトの過程 ―心理職を目指す大学院生は
いかに疲弊し、回復していくのか―

福田 風紗

・叱られ方と自己愛傾向及び社交不安との関連につ
いて

高倉 雄志

・マインドフルネスがレジリエンスに与える影響の
検討

赤木 文香

・愛着スタイルと箱庭作品の表現傾向について ―人
間の使用に着目して―

衣川 あい

・ライフストーリーワークの準備性と認知的変容の
プロセス

野村 柊

・アサーションが被援助志向性、セルフスティグマ
に及ぼす影響について

2024年（令和6年）博士論文 題目一覧

D2

赤澤 美玖

・いたずら・いじわる・いじめの違いはいつから認
識されるか

D3

清澤亜希子

・定性的・定量的アプローチによる孤独感の苦しみ
を規定する要因の検討